

# 第8期豊中市障害福祉計画・ 第4期豊中市障害児福祉計画 策定に向けた市民アンケート結果報告書 《概要版》

## 【目次】

I	調査の実施概要	1
1	調査の目的・対象・期間	1
2	回収状況	1
II	調査の主な結果	2
1	回答者の属性	2
2	政策指標に関わる質問	3
3	現行計画に記載の質問	4
	①日中の活動や社会参加の状況と意識	4
	②働くことに対する意識	7
	③障害児への支援に関する意識	10
	④相談の状況と支援の希望	13
	⑤障害福祉サービスの利用状況と意識	19
	⑥障害や発達に支援が必要とする人の人権・理解促進	26
	⑦将来の暮らし方	30
	⑧施設入所者の状況と地域生活への移行に関する意識	33

# I 調査の実施概要

## 1 調査の目的・対象・期間

調査目的	令和9年度（2027年度）～令和11年度（2029年度）を計画期間とする、 『第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画』策定にあたり、 市内障害児者の状況やニーズを把握するために行うもの。
調査対象	調査① 18歳以上の障害福祉サービス利用者 1,500人 調査② 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 1,000人 調査③ 18歳未満の障害のある市民 500人 調査④ 施設入所者 203人 調査⑤ 通所受給者証を持つ児童の保護者 500人 調査⑥ 事業所 459事業所
調査方法	調査①～⑤ 郵送による配布・回収（礼状兼督促1回） インターネットによる回答を併用 調査⑥ メールによるURLの配信・インターネットによる回収
調査期間	令和7年（2025年）11月26日～12月22日

## 2 回収状況

	対象数 (不着等を除く)	無効数 (ID重複、白票等)	有効回答数	有効回答率
18歳以上の障害福祉サービス利用者	1,495件	6件	576件 (内、Web回答 184件)	38.5%
18歳以上の障害福祉サービス未利用者	990件	3件	425件 (内、Web回答 122件)	42.9%
18歳未満の障害のある市民	499件	-	198件 (内、Web回答 102件)	39.7%
施設入所者	203件	-	151件 (内、Web回答 20件)	74.4%
通所受給者証を持つ児童	499件	1件	239件 (内、Web回答 173件)	47.9%
事業所	459件	3件	204サービス（84件） (全てWeb回答)	-

### 【参考：サービス種別回答数】

障害福祉サービス	122
障害児通所支援サービス	60
地域生活支援事業	22
計	204

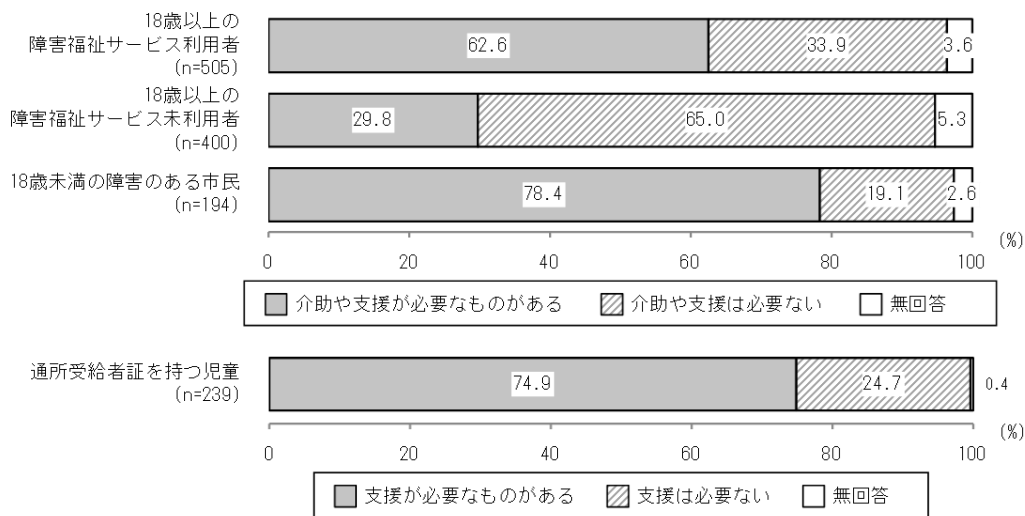
## II 調査の主な結果

### 1 回答者の属性

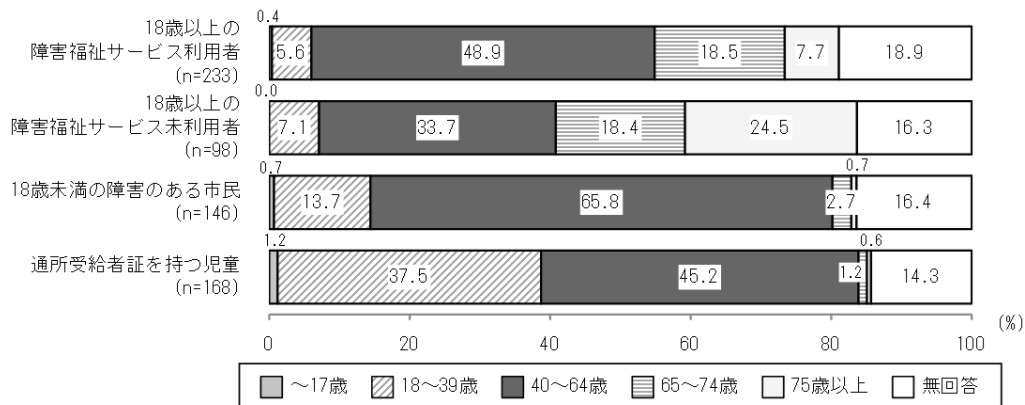
#### 《介助・支援の状況》

- 介助や支援を必要とする人の割合は、障害児の78.4%、通所受給者証を持つ児童の74.9%、サービス利用者の62.6%、サービス未利用者の29.8%となっています。
- 介助・支援者の年齢について、サービス未利用者の42.9%、サービス利用者の26.2%が65歳以上と答えています。また、サービス利用者については、介助・支援者が対象者本人以外も介護をしているケースが28.8%となっています。

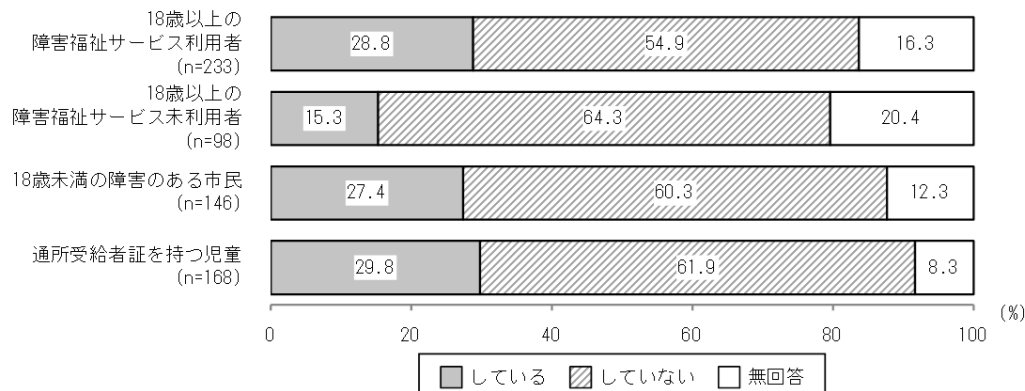
〔介助や支援を必要とする人の割合〕（報告書P. 20）



〔主に介助・支援してくれる人の年齢〕（報告書P. 26）



〔主に介助・支援してくれる人の介護状況〕（報告書P. 27）



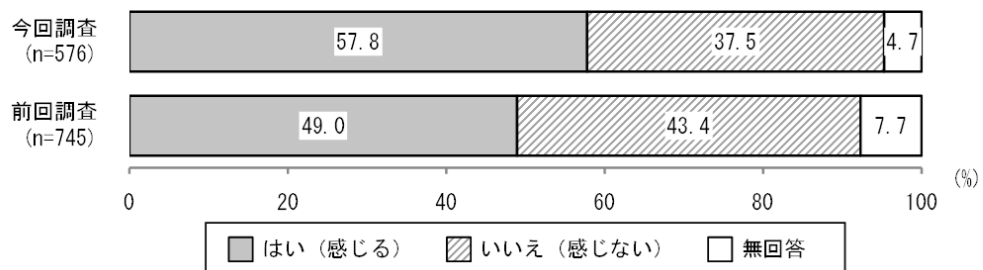
## 2 政策指標に関わる質問

### 《ライフスタイルに応じた生活ができているか》(報告書P.34)

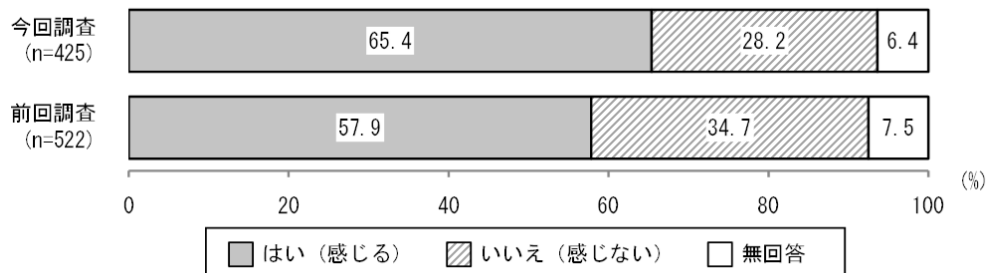
○障害や難病があっても、ライフスタイルに応じた生活ができている人の割合は、障害児の65.7%、サービス未利用者の65.4%、サービス利用者の57.8%となっています。

前回調査と比較すると、「はい(感じる)」の割合がサービス利用者では前回調査より8.8ポイント、サービス未利用者では前回調査より7.5ポイント、障害児では前回調査より5.4ポイント、それぞれ高くなっています。

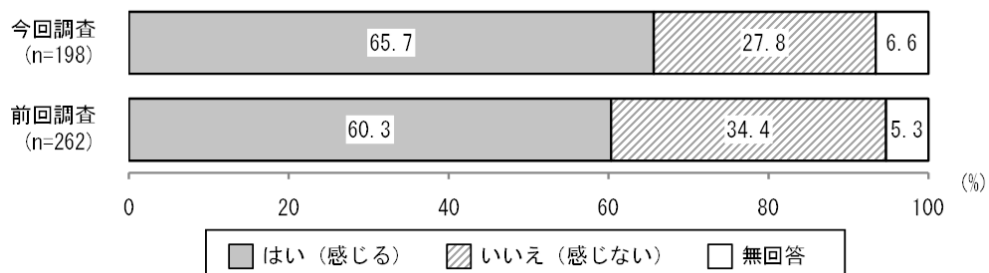
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



#### 18歳未満の障害のある市民

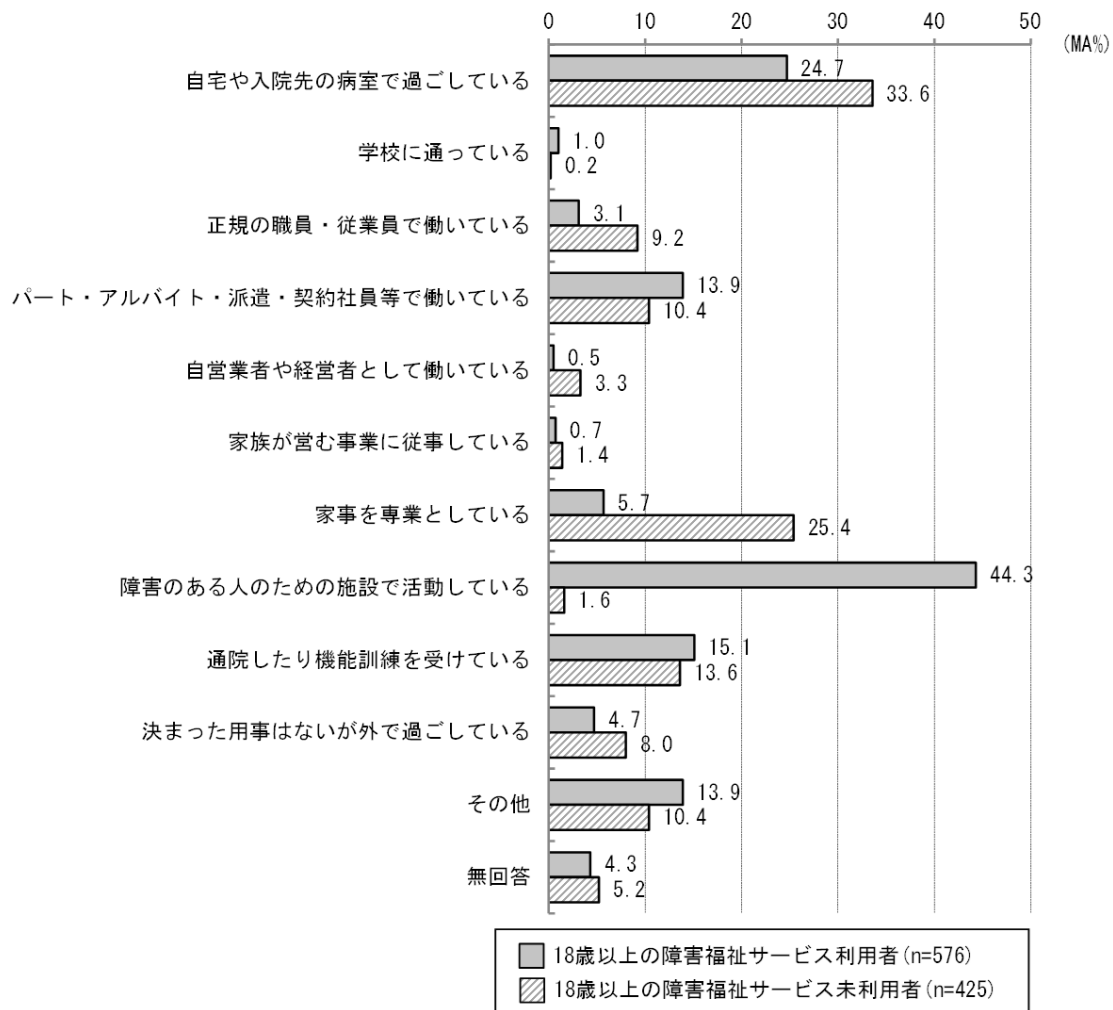


### 3 現行計画に記載の質問

#### ①日中の活動や社会参加の状況と意識

##### 《昼間の時間の過ごし方》（報告書P.44）

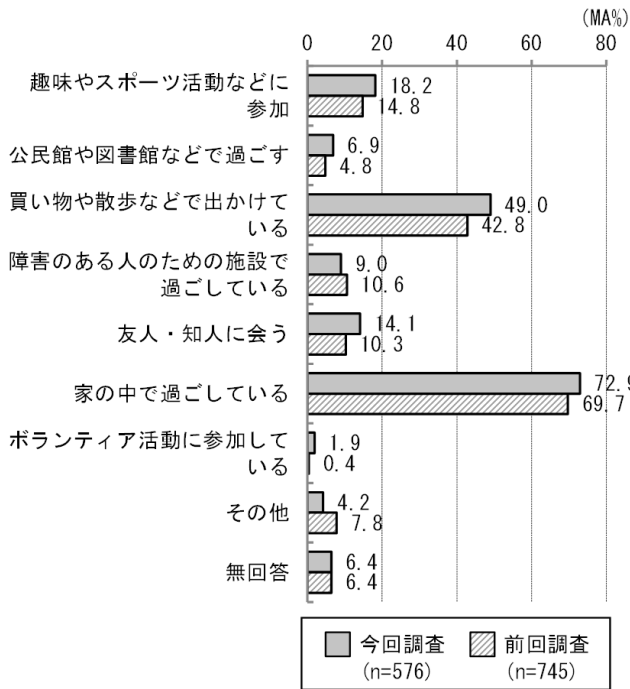
- サービス利用者では、「障害のある人のための施設で活動している」が44.3%と最も多く、次いで「自宅や入院先の病室で過ごしている」が24.7%となっています。また、サービス未利用者では、「自宅や入院先の病室で過ごしている」が33.6%で最も多くなっています。
- サービス未利用者については、パート・アルバイトなどで働く人が10.4%、正規職員が9.2%など、24.3%が何らかの形で働いています。



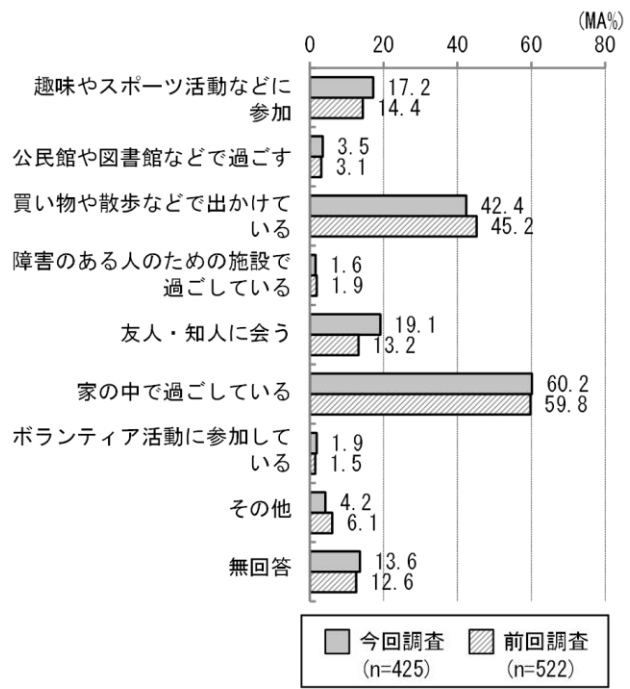
## 《夕方・夜間や休日の過ごし方》（報告書P.49）

- 18歳以上については、家の中で過ごす人がサービス利用者の72.9%、サービス未利用者の60.2%を占めており、前回調査と比べてやや高い割合となっています。
- 障害児については、家や施設の中で過ごす人が65.2%、放課後等デイサービスなどの通所施設や訓練に通っている人が62.1%となっており、前回調査と比べて高い割合となっています。また、通所受給者証を持つ児童では家や施設の中で過ごす人が69.0%、通所施設に通っている人が71.5%となっています。

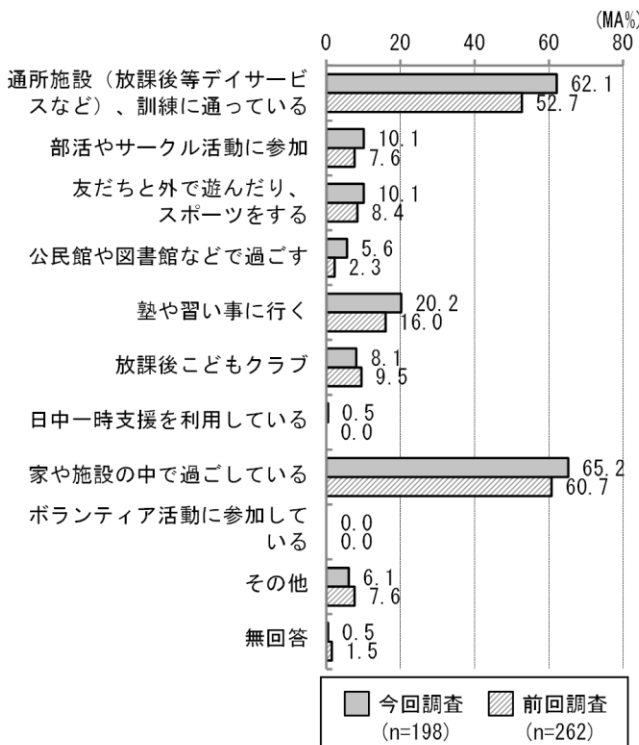
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



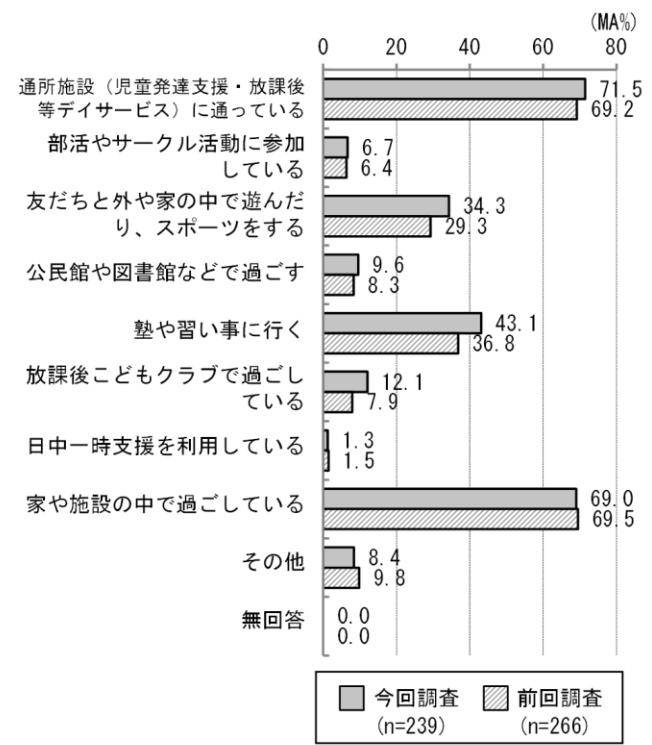
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



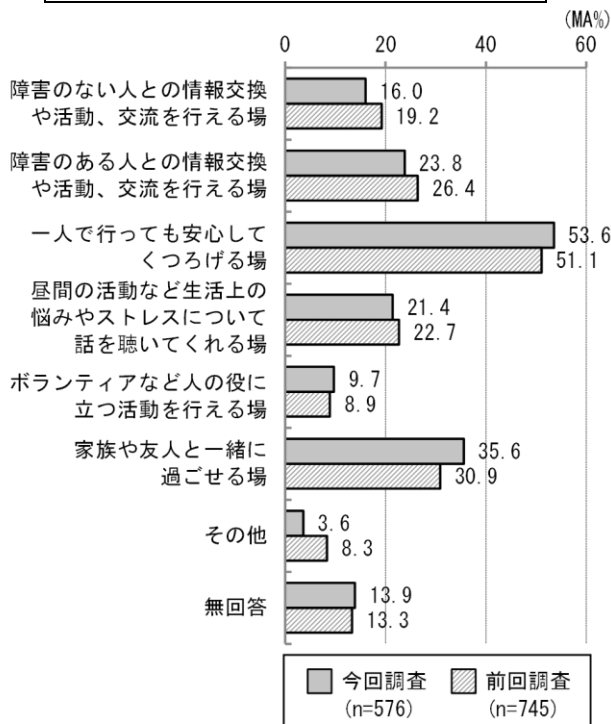
### 通所受給者証を持つ児童



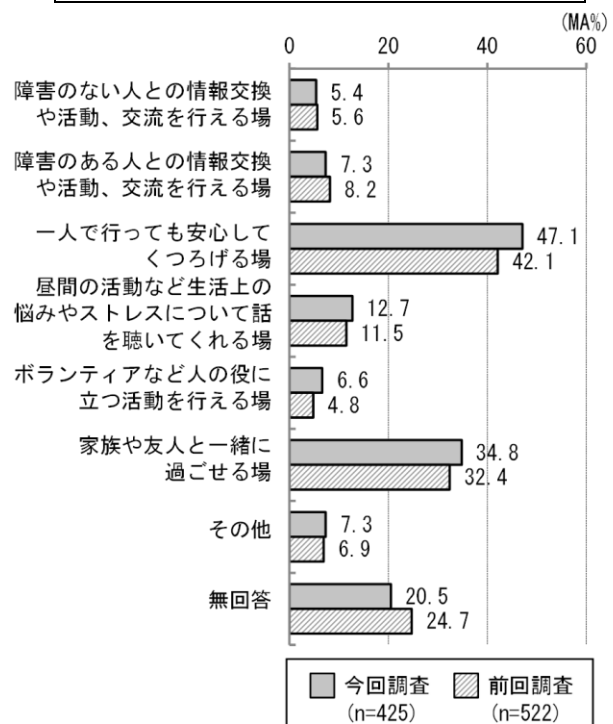
## 《居場所や活動の場として行ってみたいところ》(報告書P.56)

- 18歳以上では、一人で行っても安心してくつろげる場を希望する人がサービス利用者の53.6%、サービス未利用者で47.1%を占めており、前回調査より高い割合となっています。
- 障害児では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が62.1%、「家族や友人と一緒に過ごせる場」が56.6%となっており、高い割合となっています。また、通所受給者証を持つ児童では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が54.8%、「家族や友人と一緒に過ごせる場」が60.3%となっており、前回調査より高い割合となっています。

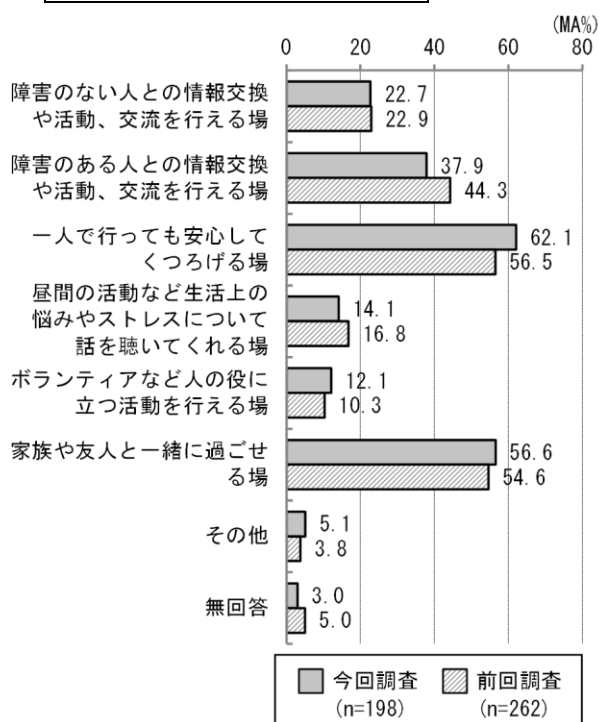
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



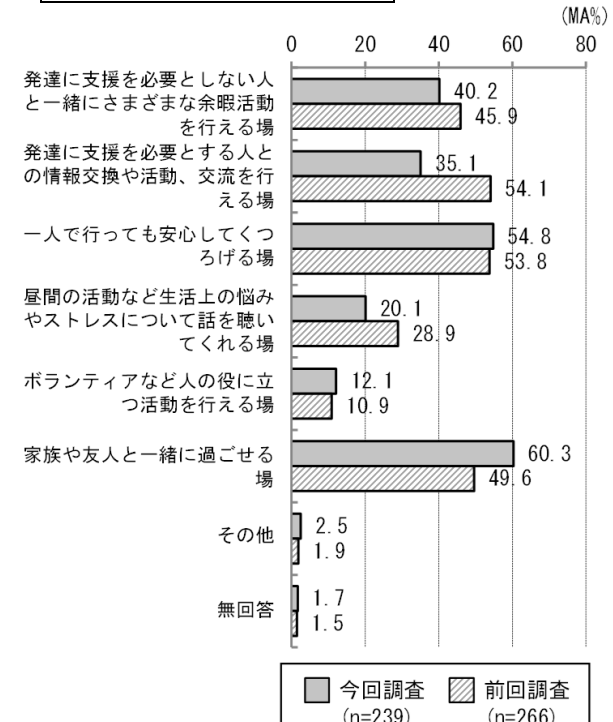
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



### 通所受給者証を持つ児童

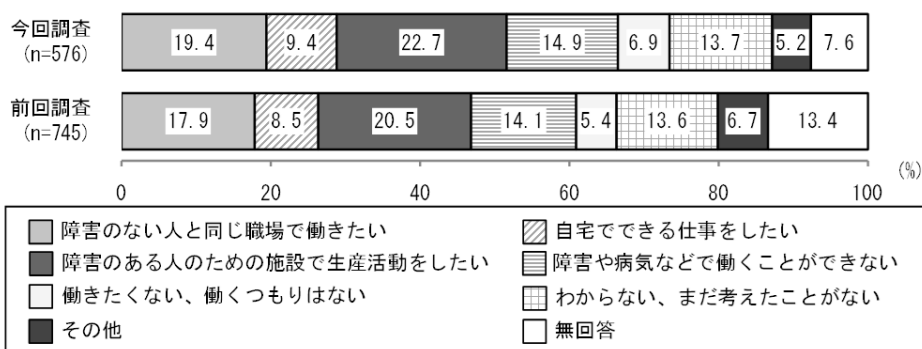


## ②働くことに対する意識

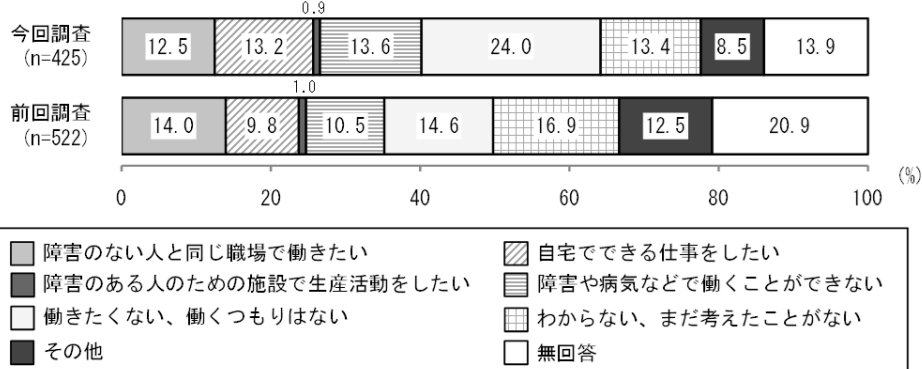
### 《働くことに関する意向》（報告書P.63）

○何らかの形で就労意向を示している人は、サービス利用者の51.5%、サービス未利用者の26.6%、障害児の37.9%がいずれかの形で働く、もしくは生産活動をしたと考えています。前回調査と比較すると、就労意向を示している人は、サービス利用者とサービス未利用者では前回調査より高い割合となっています。年齢別には、18～39歳のサービス利用者、サービス未利用者のうち50%以上、15～17歳の障害児の55.6%が就労意向を示しています。また、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」という人はサービス利用者の22.7%、障害児の16.7%、「障害のない人と同じ職場で働きたい」と答えた人はサービス利用者で19.4%、サービス未利用者で12.5%、障害児で18.2%となっています。

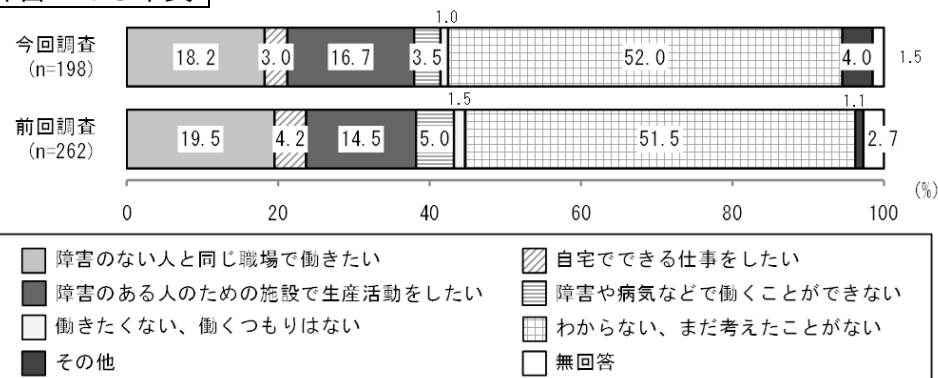
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



#### 18歳未満の障害のある市民

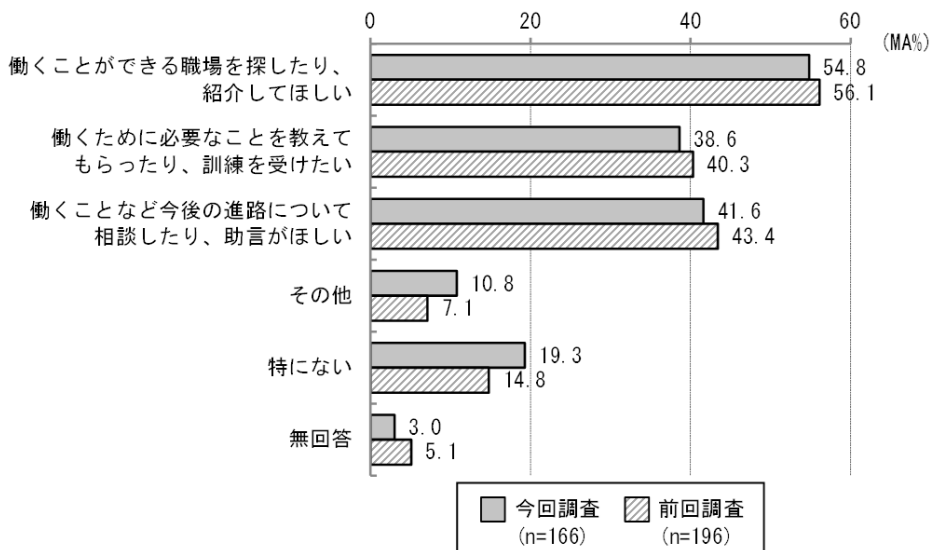


## 《仕事に就くため、働き続けるために必要な支援》

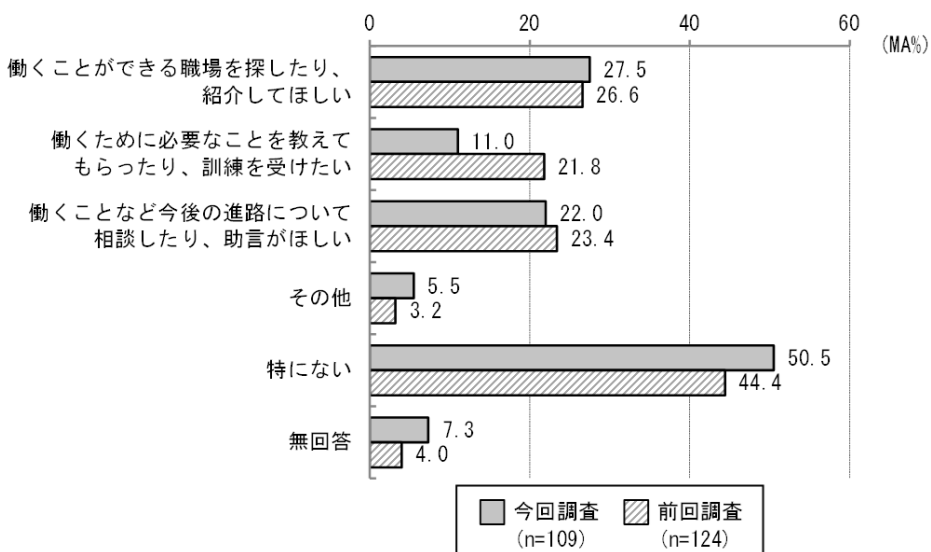
- 障害のある人が仕事に就くために必要な支援として、サービス利用者・サービス未利用者とも、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が最も多く、次いで「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」が多くなっています。前回調査と比較すると、サービス利用者ではいずれの項目も前回調査より割合が低く、サービス未利用者では「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が前回調査よりやや高い割合となっています。
- 障害や発達に支援を必要とする人が一般の職場で働き続けるために必要な支援として、サービス利用者・サービス未利用者・障害児とも、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」、「経営者や職場の同僚の障害への理解」が上位にあるとともに、サービス利用者や障害児では「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」をあげる人が多く、就労後のフォローが重視されています。また、通所受給者証を持つ児童では、「発達の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が最も多く、前回調査よりやや高い割合となっています。

〔希望する支援〕（報告書P.67）

### 18歳以上の障害福祉サービス利用者

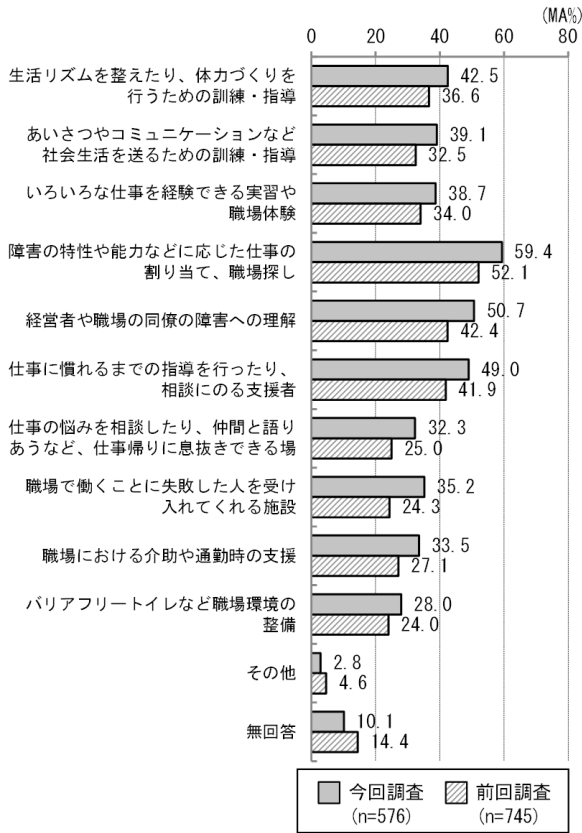


### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者

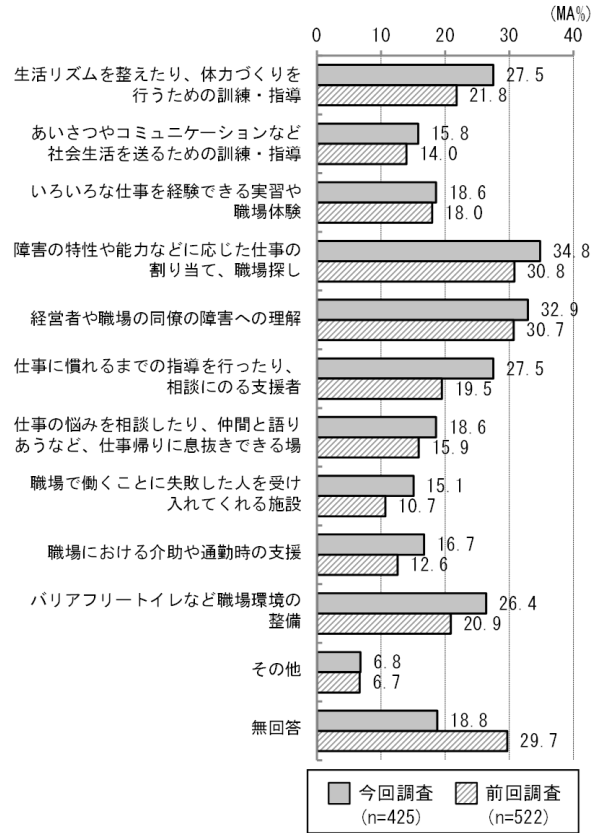


〔仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援〕（報告書P.70）

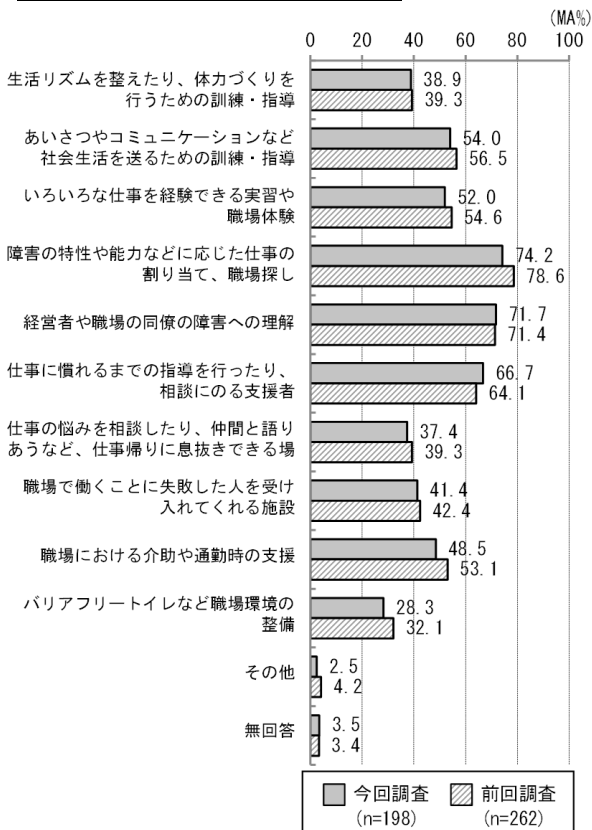
18歳以上の障害福祉サービス利用者



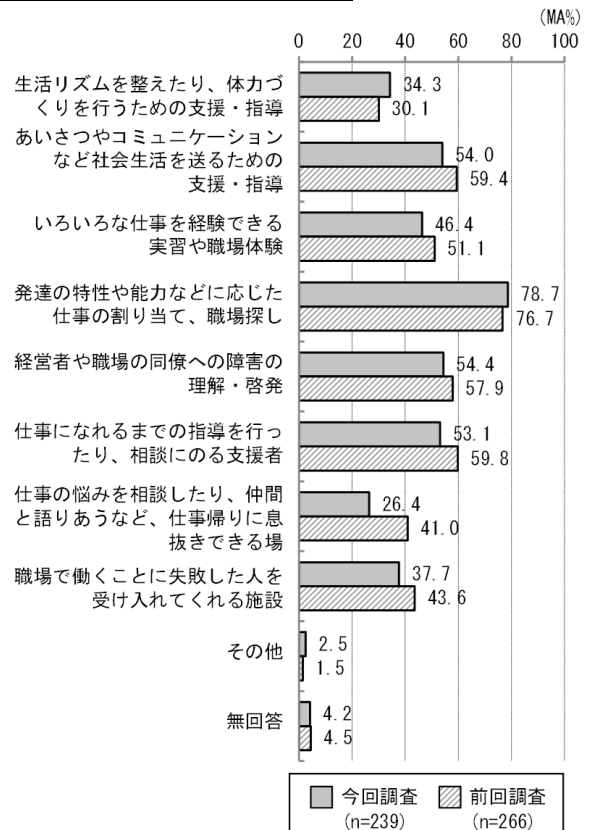
18歳以上の障害福祉サービス未利用者



18歳未満の障害のある市民



通所受給者証を持つ児童



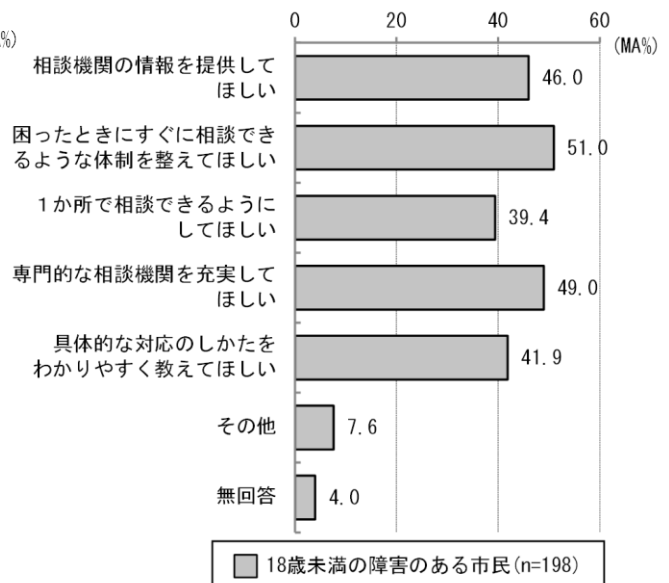
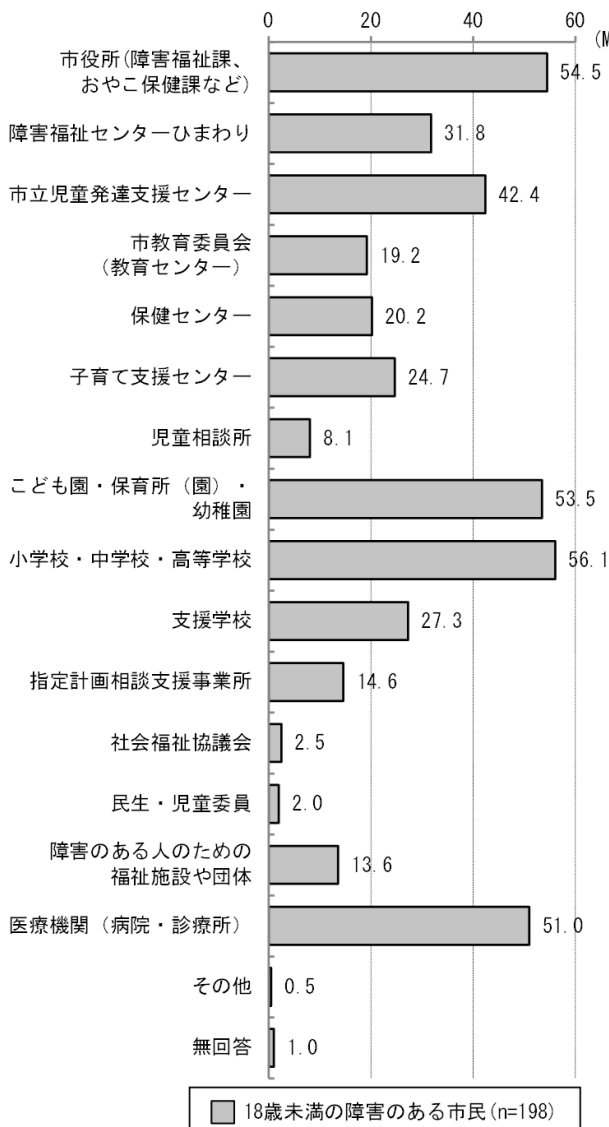
### ③障害児への支援に関する意識

#### 《相談の状況》

- 療育や教育に関する相談先は、「小学校・中学校・高等学校」や「市役所(障害福祉課、おやこ保健課など)」、「こども園・保育所(園)・幼稚園」、「医療機関(病院・診療所)」が50%以上となっています。
- 相談対応に関する希望として、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」や「専門的な相談機関を充実してほしい」、「相談機関の情報を提供してほしい」が上位を占めています。

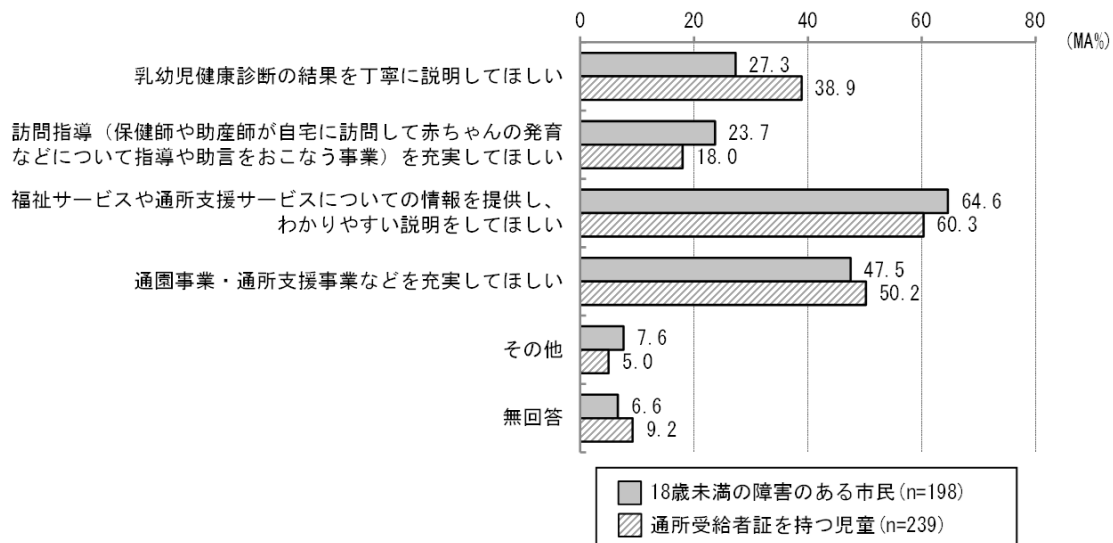
〔療育や教育に関する相談先〕(報告書P.103)

〔療育や教育に関する相談への希望〕(報告書P.104)



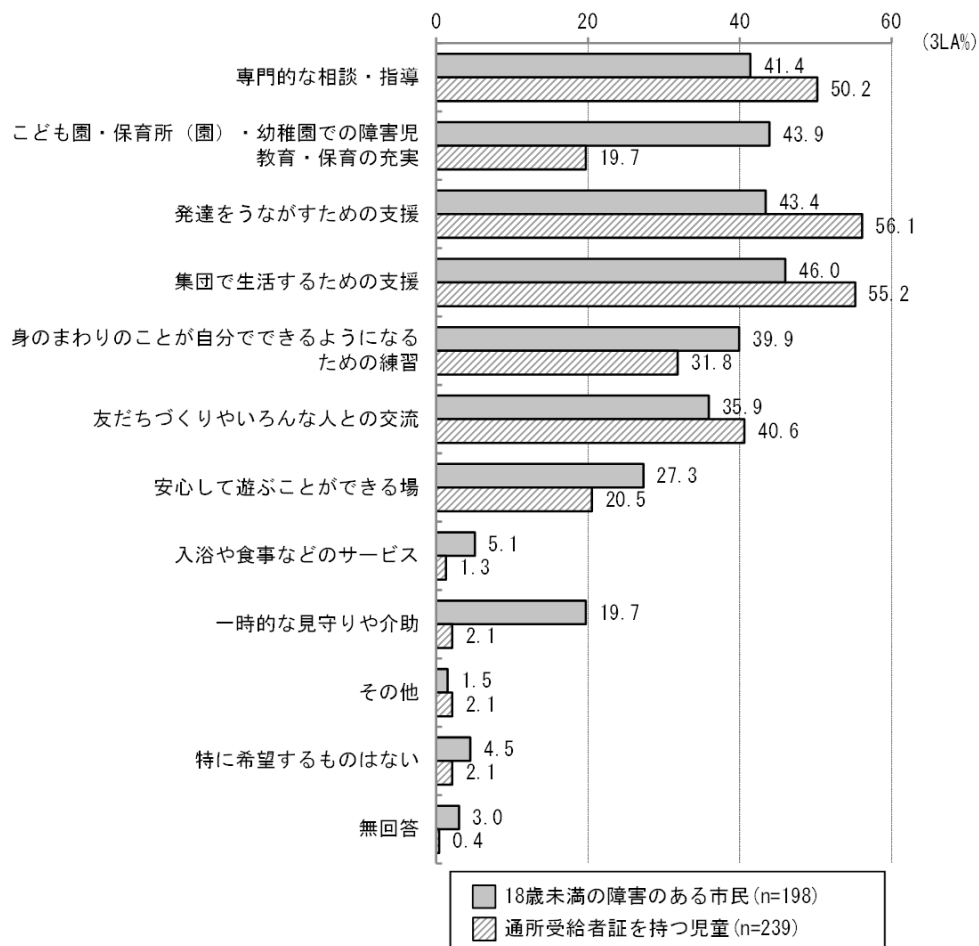
## 《乳幼児期における希望》（報告書P.105）

○障害児・通所受給者証を持つ児童とも「福祉サービスや通所支援サービスについての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」、「通園事業・通所支援事業などを充実してほしい」が40%以上となっています。



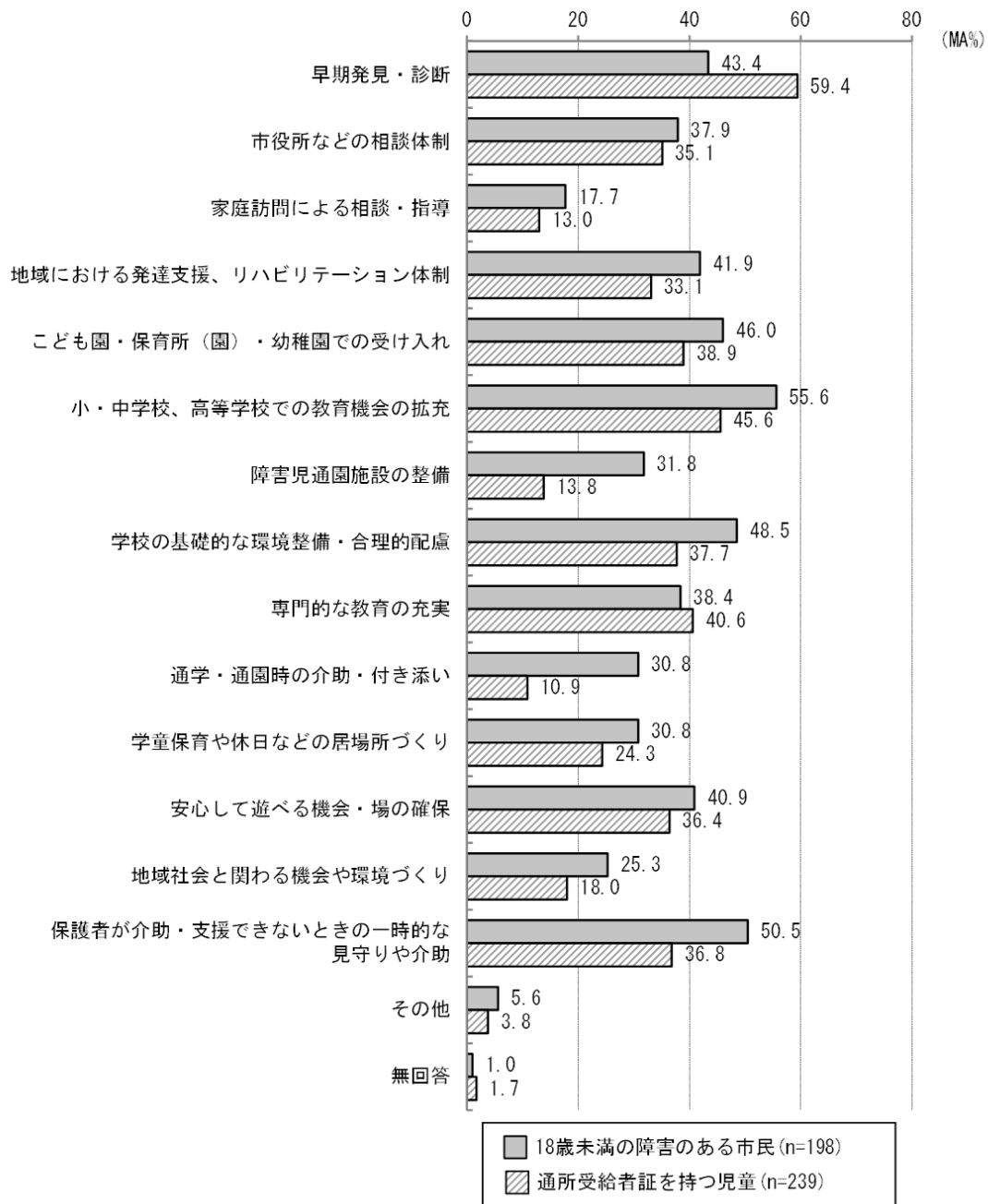
## 《希望する療育やサービス》（報告書P.107）

○障害児は「集団で生活するための支援」が最も多く、次いで「こども園・保育所（園）・幼稚園での障害児教育・保育の充実」、「発達をうながすための支援」、通所受給者証を持つ児童では「発達をうながすための支援」が最も多く、次いで「集団で生活するための支援」、「専門的な相談・指導」となっており、40%以上となっています。



## 《充実が必要だと思う施策やサービス》（報告書P.108）

○障害児では、「小・中学校、高等学校での教育機会の拡充」が55.6%で最も多く、次いで「保護者が介助・支援できないときの一時的な見守りや介助」、「学校の基礎的な環境整備・合理的配慮」となっています。通所受給者証を持つ児童では、「早期発見・診断」が59.4%で最も多く、次いで「小・中学校、高等学校での教育機会の拡充」、「専門的な教育の充実」となっています。



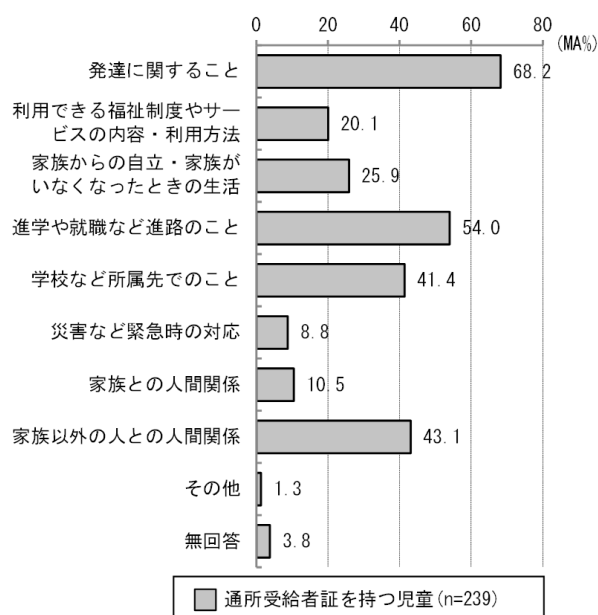
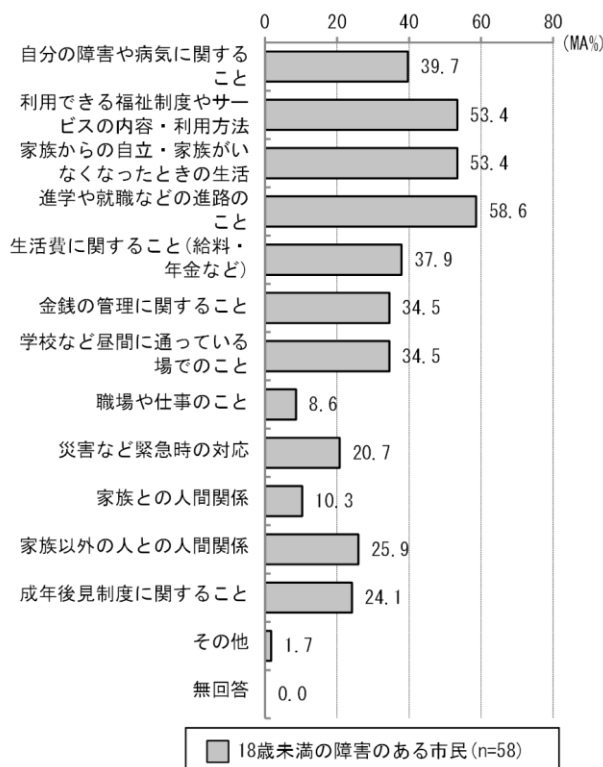
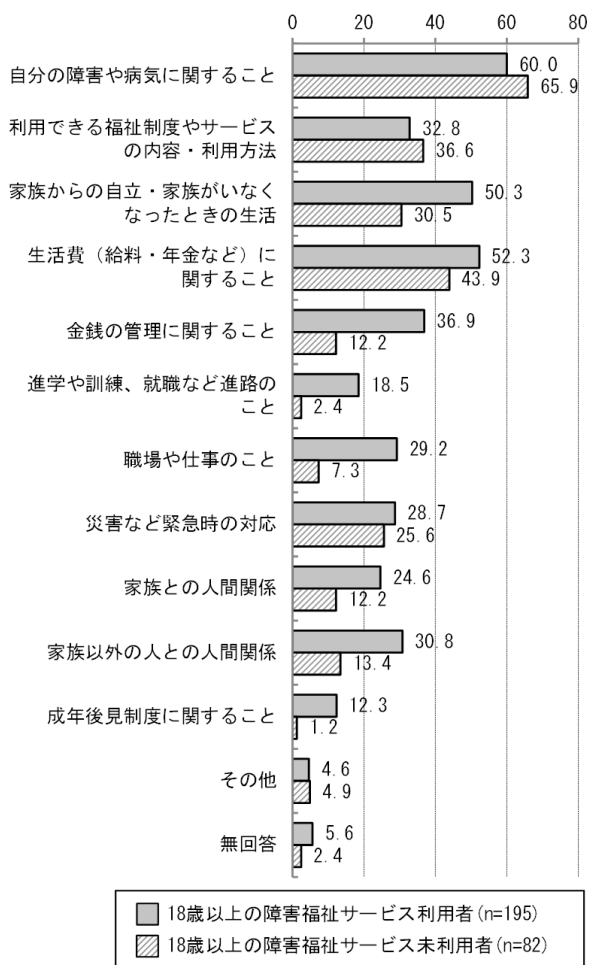
#### ④相談の状況と支援の希望

##### 《今、気にかかっていること》(報告書P.83・101)

○サービス利用者では「自分の障害や病気に関すること」が60.0%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が52.3%、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が50.3%となっています。サービス未利用者についても「自分の障害や病気に関すること」が65.9%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が43.9%、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」が36.6%となっています。

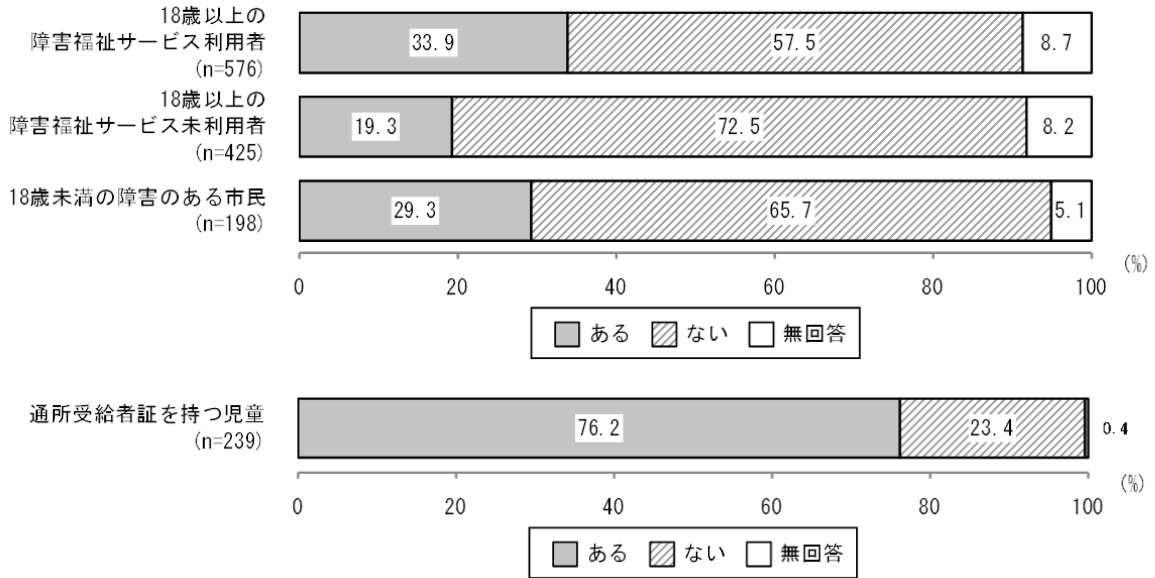
○障害児では、「進学や就職などの進路のこと」が58.6%で最も多く、次いで「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」と「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」がそれぞれ53.4%、「自分の障害や病気に関すること」が39.7%となっています。

○通所受給者証を持つ児童では、「発達に関すること」が68.2%で最も多く、次いで「進学や就職など進路のこと」が54.0%、「家族以外の人との人間関係」が43.1%となっています。



《家族・親戚や日ごろ通う場所以外の人への相談状況》（報告書P. 82・98）

○家族や日常的に通う場所以外の人に相談をしている回答者は、通所受給者証を持つ児童の76.2%、サービス利用者の33.9%、障害児の29.3%、サービス未利用者の19.3%となっています。

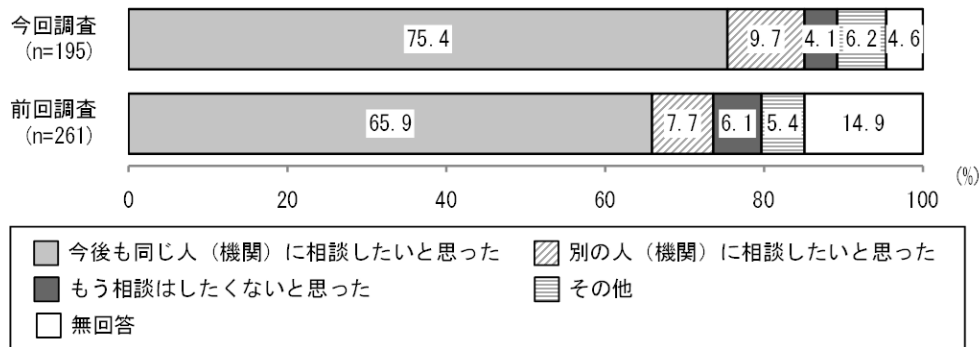


## 《今後の相談先について》

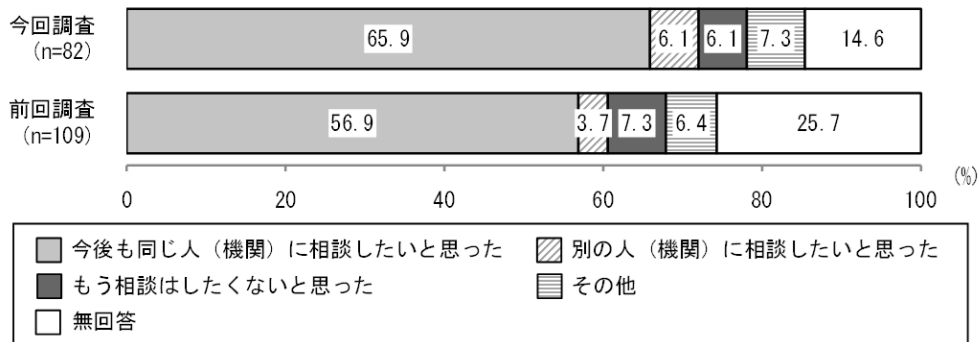
- 家族や日常的に通う場所以外の人に相談をしている人のうち、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」人はサービス利用者で75.4%、障害児で72.4%、サービス未利用者で65.9%となっています。前回調査と比較すると、サービス利用者、サービス未利用者では前回調査より1割程度高くなっています。
- 「別のの人に相談したい」、「もう相談したくない」と思った人に理由を尋ねた結果では、「専門的な助言を受けられなかった」、「障害への理解がたりないと感じた」、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」などが多くなっています。

〔相談した際の評価〕（報告書P. 85）

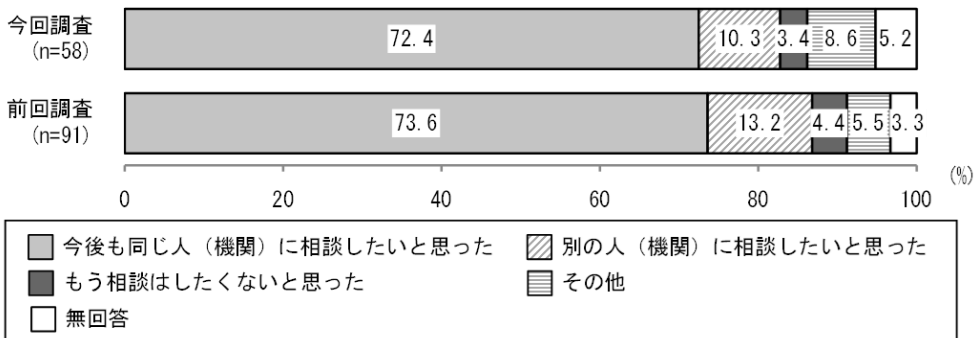
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者

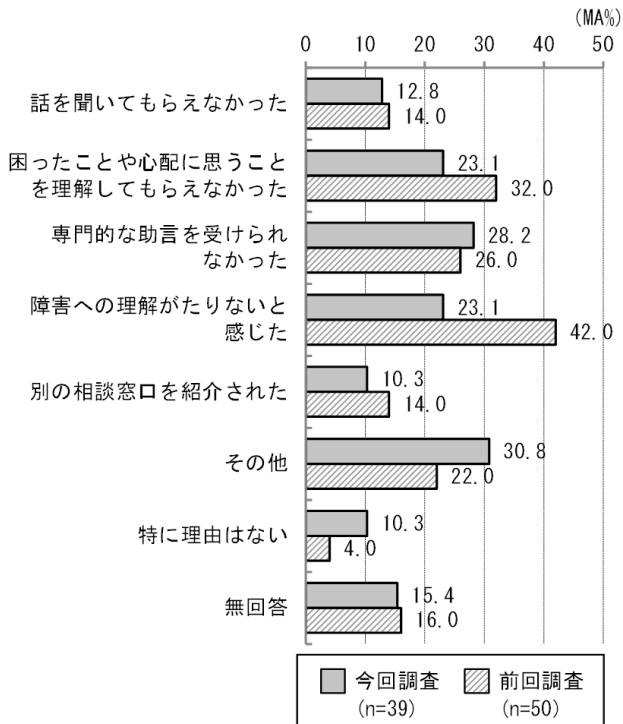


### 18歳未満の障害のある市民

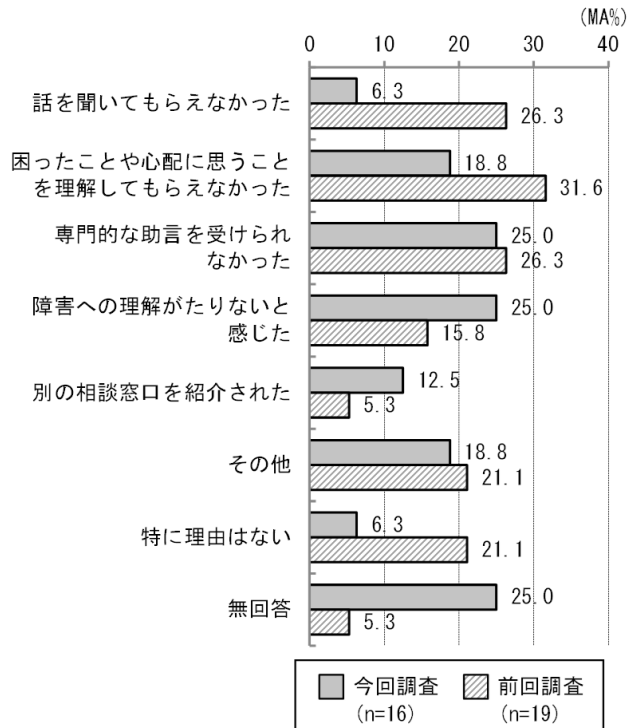


〔「別の人に相談したい」「もう相談したくない」と思った理由〕（報告書P. 89）

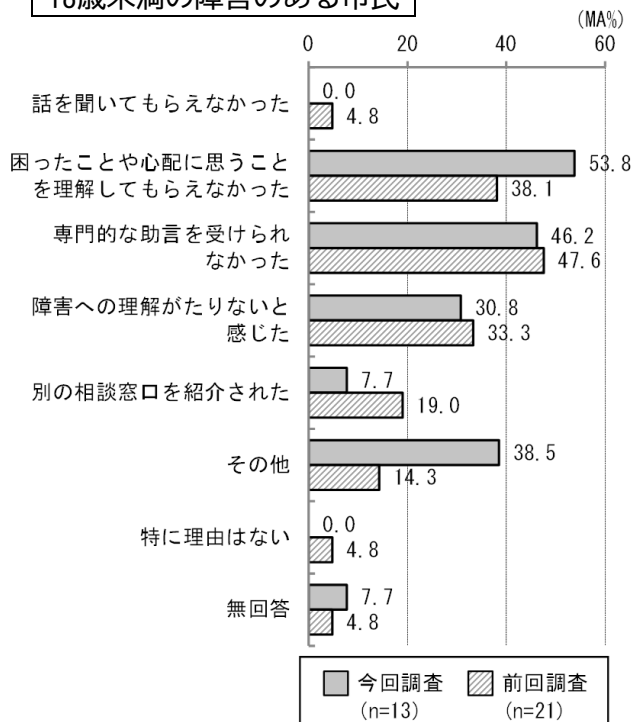
18歳以上の障害福祉サービス利用者



18歳以上の障害福祉サービス未利用者



18歳未満の障害のある市民

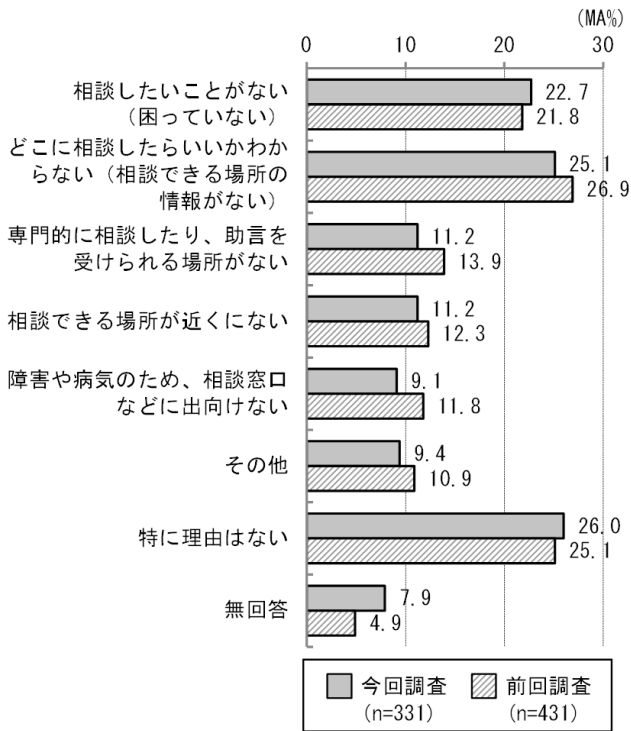


## 《相談したことがない理由》（報告書P.93）

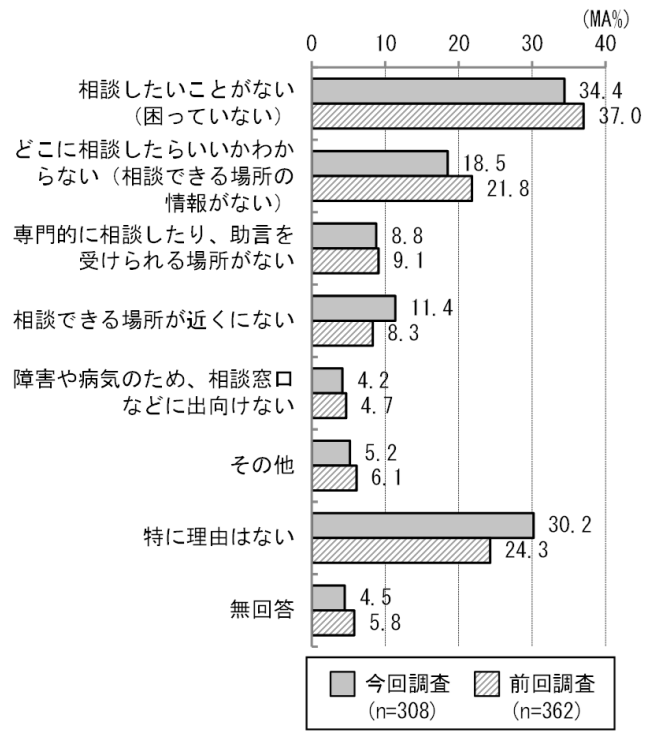
○「どこに相談したらいいかわからない」と答えた人は、サービス利用者の25.1%、サービス未利用者の18.5%、障害児の34.6%となっています。

前回調査と比較すると、サービス未利用者では「相談できる場所が近くにない」が前回調査より3.1ポイント高く、障害児では「相談したいことがない（困っていない）」が7.9ポイント高くなっています。

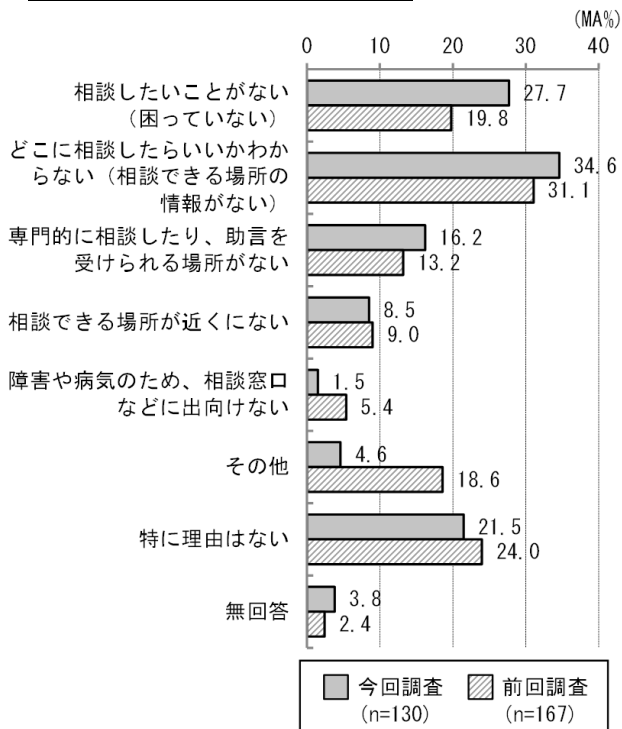
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者

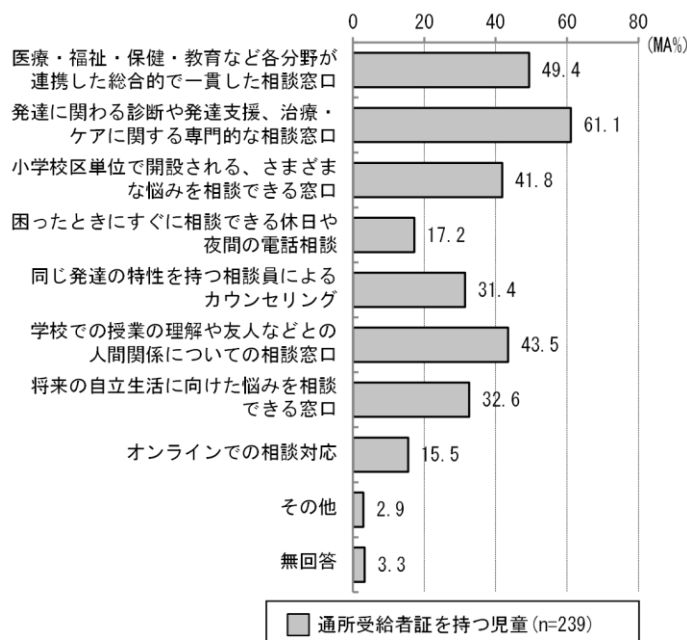
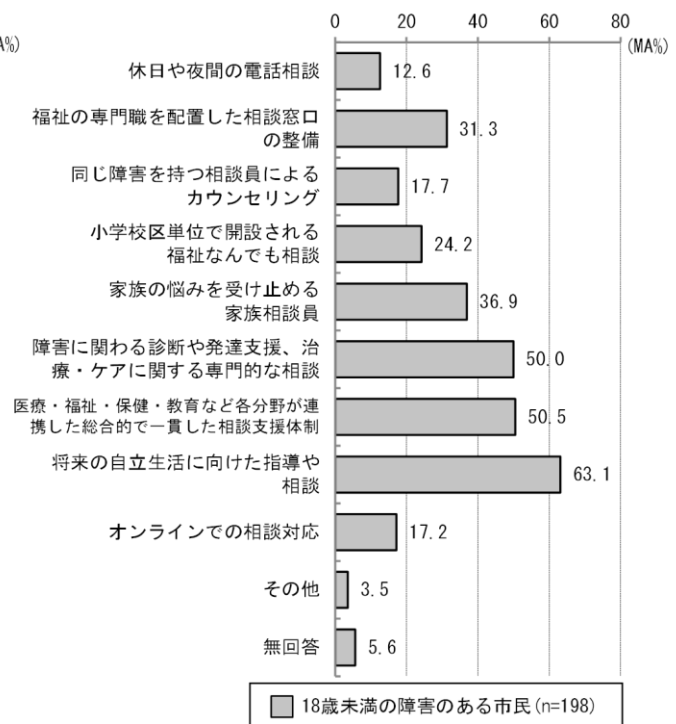
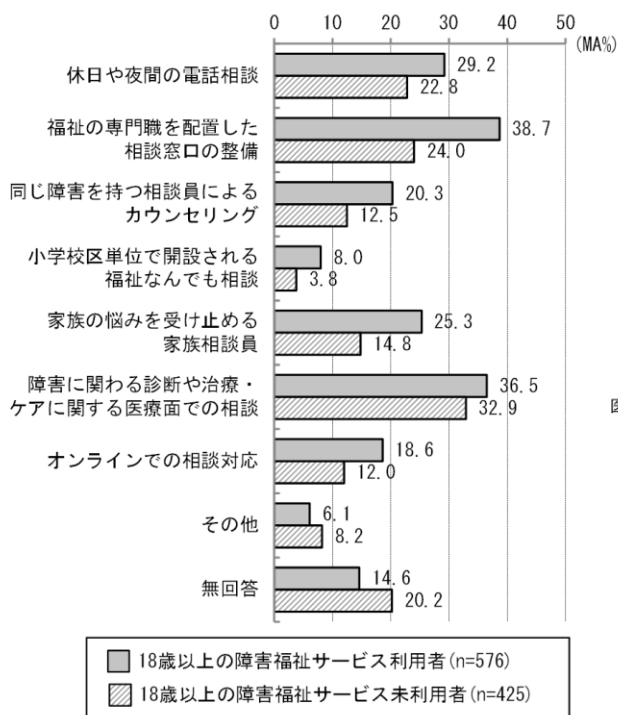


### 18歳未満の障害のある市民



## 《今後の相談支援体制への希望》（報告書P.97・102）

- サービス利用者は、「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が38.7%で最も多く、次いで「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が36.5%、「休日や夜間の電話相談」が29.2%となっています。サービス未利用者では、「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が32.9%で最も多く、次いで「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が24.0%、「休日や夜間の電話相談」が22.8%となっています。
- 障害児では、「将来の自立生活に向けた指導や相談」が63.1%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談支援体制」が50.5%、「障害に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談」が50.0%となっています。
- 通所受給者証を持つ児童では、「発達に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談窓口」が61.1%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談窓口」が49.4%、「学校での授業の理解や友人などとの人間関係についての相談窓口」が43.5%となっています。



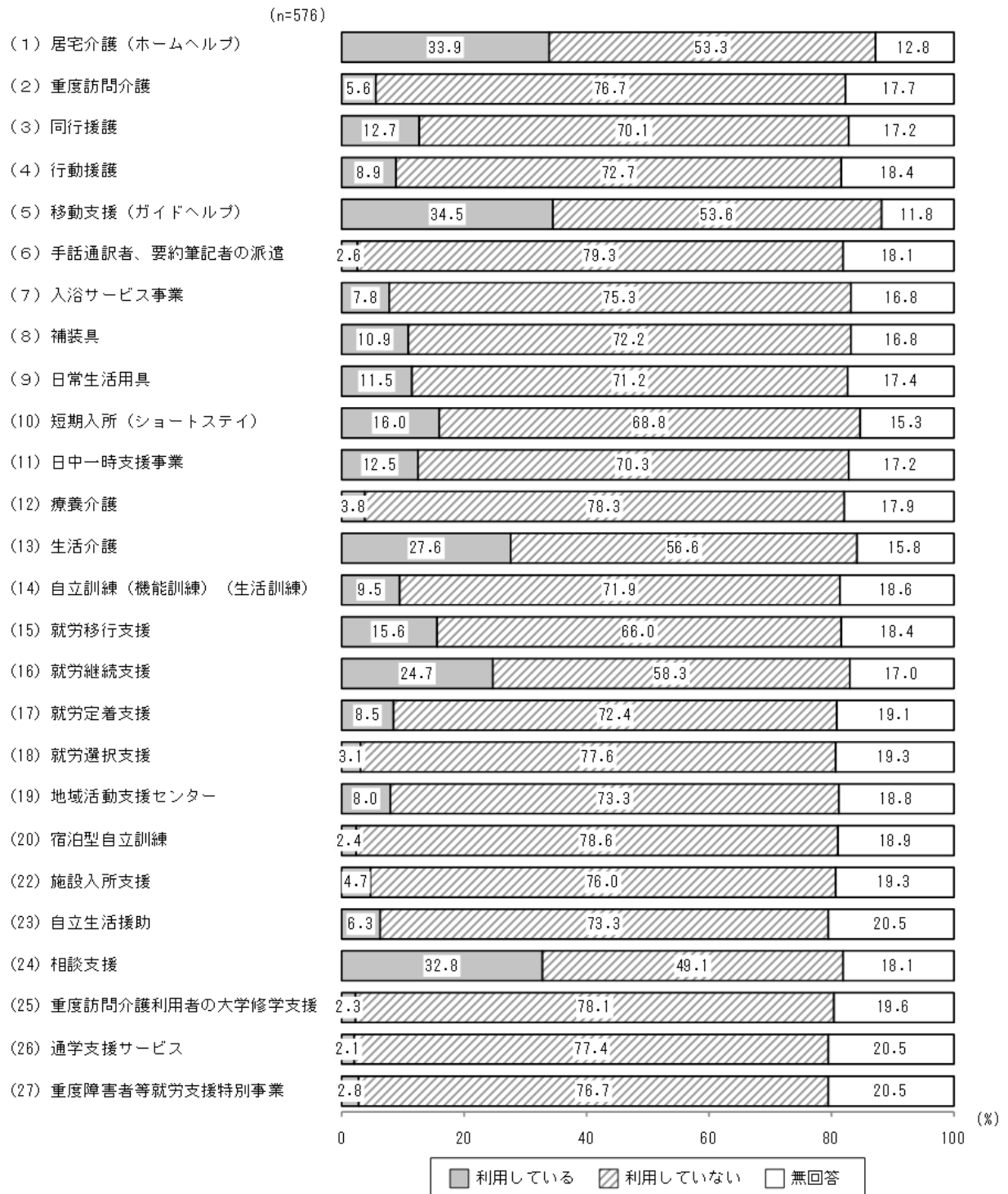
## ⑤障害福祉サービスの利用状況と意識

### 《障害福祉サービスの利用状況》(報告書P.161)

○サービス利用者では、移動支援、居宅介護、相談支援、生活介護、就労継続支援、短期入所の順で利用者が多く見られます。

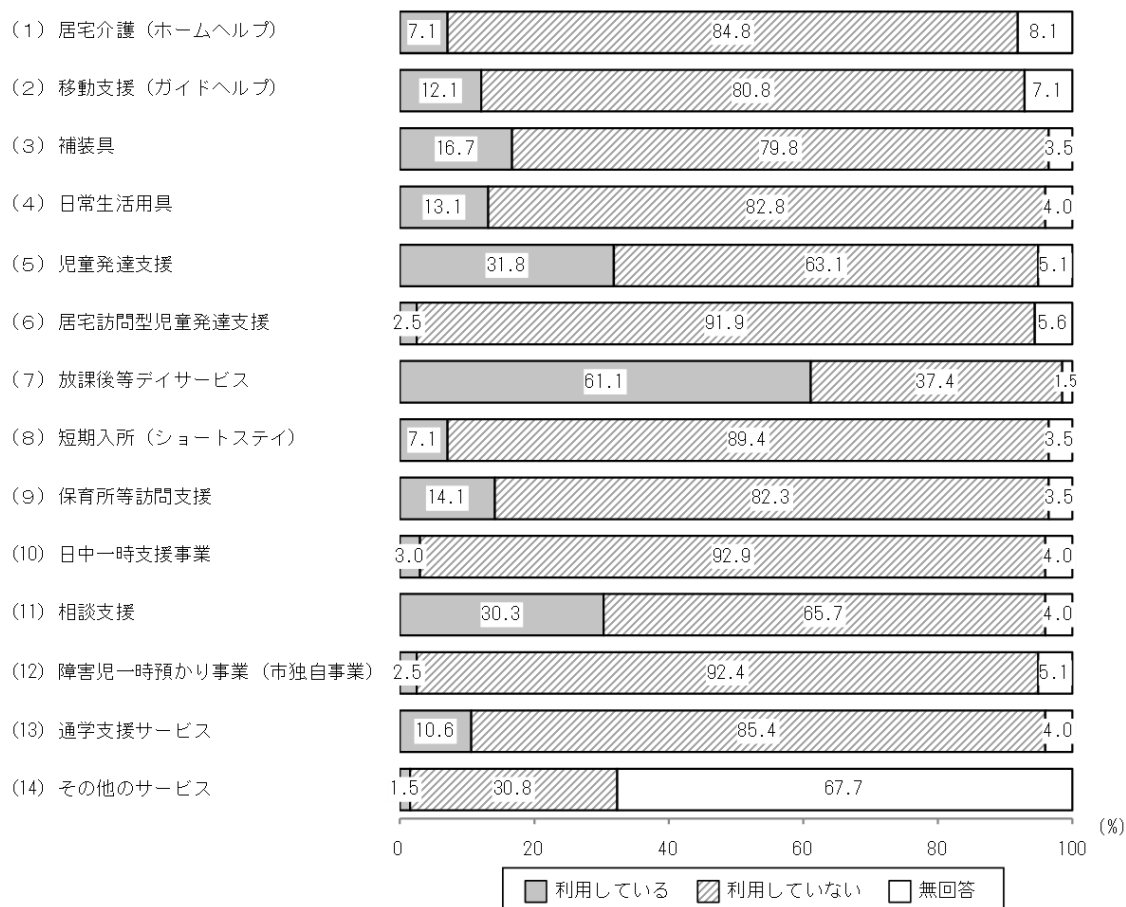
○障害児では、放課後等デイサービスが61.1%となるほか、児童発達支援、相談支援、補装具の順となっています。

・18歳以上の障害福祉サービス利用者



## ・18歳未満の障害のある市民

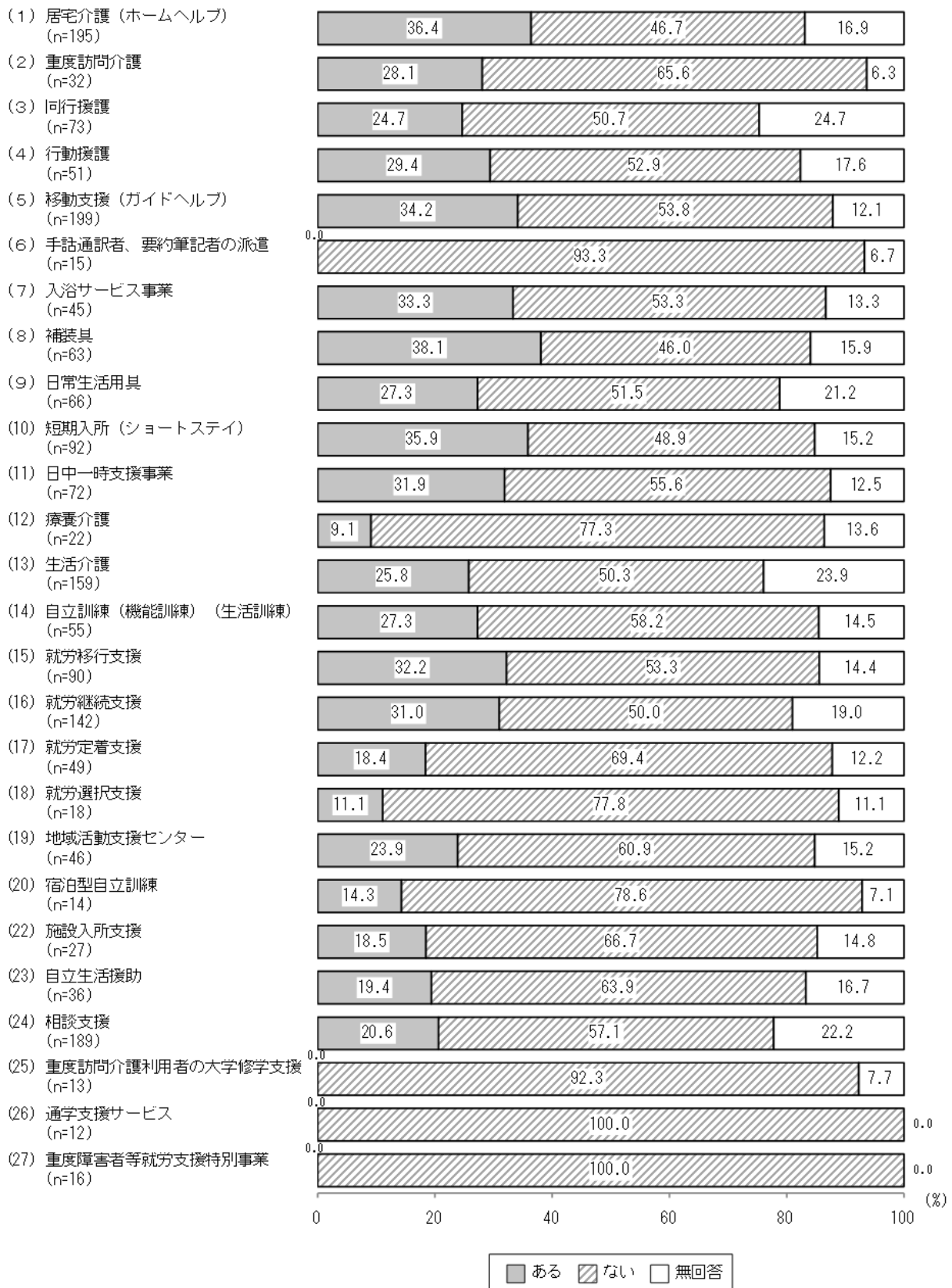
(n=198)



### 《利用サービスの不満の有無と内容》(報告書P.164・167)

- サービス利用者では、不満が「ある」は、補装具が最も多く、次いで居宅介護 (ホームヘルプ)、短期入所 (ショートステイ) となっています。主な不満の内容をみると、補装具では「相談や手続きに時間がかかり面倒くさい」、居宅介護では「利用回数・時間などに制限がある」が最も多くなっています。
- 障害児では、不満が「ある」は、短期入所 (ショートステイ) が最も多く、次いで補装具、移動支援 (ガイドヘルプ) となっています。
- 通所受給者証を持つ児童では、不満が「ある」は、放課後等デイサービスが最も多く、次いで児童発達支援となっています。主な不満の内容をみると、児童発達支援では「身近なところでサービスを利用できない」が最も多く、放課後等デイサービスでは「利用したい日・時間に利用できない」が最も多くなっています。

〔利用サービスの不満点の有無（18歳以上の障害福祉サービス利用者）〕

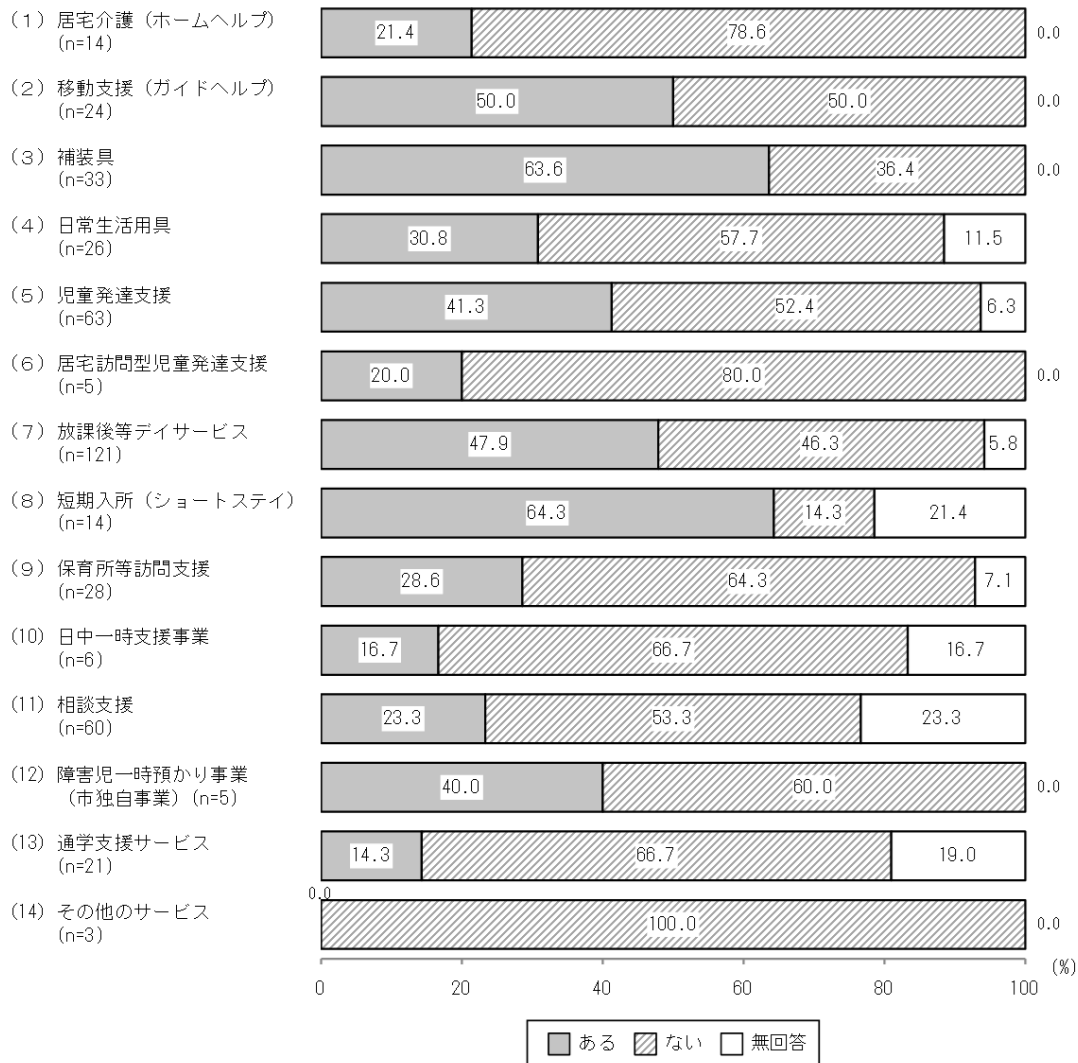


〔利用サービスの不満内容（18歳以上の障害福祉サービス利用者）〕

（単位：3LA%）

	サンプル数	身近なところでサービスを利用できない	利用したい日・時間に利用できない	利用回数・時間などに制限がある	サービスを断られることが多利用	利用料が高い	ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
(1) 居宅介護（ホームヘルプ）	71	14.1	31.0	46.5	7.0	8.5	25.4	5.6	18.3	21.1	11.3	5.6	
(2) 重度訪問介護	9	-	33.3	55.6	22.2	11.1	33.3	-	11.1	22.2	11.1	-	
(3) 同行援護	18	27.8	33.3	55.6	-	11.1	5.6	11.1	5.6	-	-	11.1	
(4) 行動援護	15	26.7	33.3	46.7	-	20.0	40.0	6.7	26.7	13.3	-	13.3	
(5) 移動支援（ガイドヘルプ）	68	10.3	36.8	42.6	8.8	2.9	29.4	10.3	19.1	10.3	10.3	7.4	
(6) 手話通訳者、要約筆記者の派遣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(7) 入浴サービス事業	15	40.0	46.7	66.7	6.7	-	26.7	-	6.7	6.7	-	13.3	
(8) 補装具	24	20.8	12.5	8.3	4.2	20.8	-	8.3	16.7	50.0	4.2	8.3	
(9) 日常生活用具	18	22.2	-	16.7	-	5.6	11.1	16.7	44.4	55.6	5.6	5.6	
(10) 短期入所（ショートステイ）	33	15.2	57.6	60.6	9.1	9.1	12.1	3.0	12.1	3.0	15.2	-	
(11) 日中一時支援事業	23	21.7	34.8	39.1	8.7	8.7	8.7	-	8.7	8.7	13.0	13.0	
(12) 療養介護	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
(13) 生活介護	41	19.5	12.2	31.7	7.3	12.2	29.3	12.2	26.8	9.8	9.8	9.8	
(14) 自立訓練（機能訓練）（生活訓練）	15	13.3	20.0	26.7	-	6.7	33.3	-	33.3	-	20.0	13.3	
(15) 就労移行支援	29	24.1	6.9	13.8	3.4	3.4	27.6	17.2	24.1	10.3	13.8	10.3	
(16) 就労継続支援	44	27.3	13.6	20.5	-	4.5	38.6	9.1	20.5	9.1	18.2	6.8	
(17) 就労定着支援	9	11.1	11.1	22.2	-	33.3	-	-	11.1	-	22.2	22.2	
(18) 就労選択支援	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	
(19) 地域活動支援センター	11	36.4	27.3	18.2	-	-	9.1	9.1	18.2	18.2	27.3	-	
(20) 宿泊型自立訓練	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	
(22) 施設入所支援	5	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-	40.0	20.0	-	-	
(23) 自立生活援助	7	42.9	28.6	57.1	-	-	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	
(24) 相談支援	39	12.8	28.2	12.8	-	2.6	25.6	-	33.3	23.1	10.3	15.4	
(25) 重度訪問介護利用者の大学修学支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(26) 通学支援サービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(27) 重度障害者等就労支援特別事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

〔利用サービスの不満点の有無（18歳未満の障害のある市民）〕

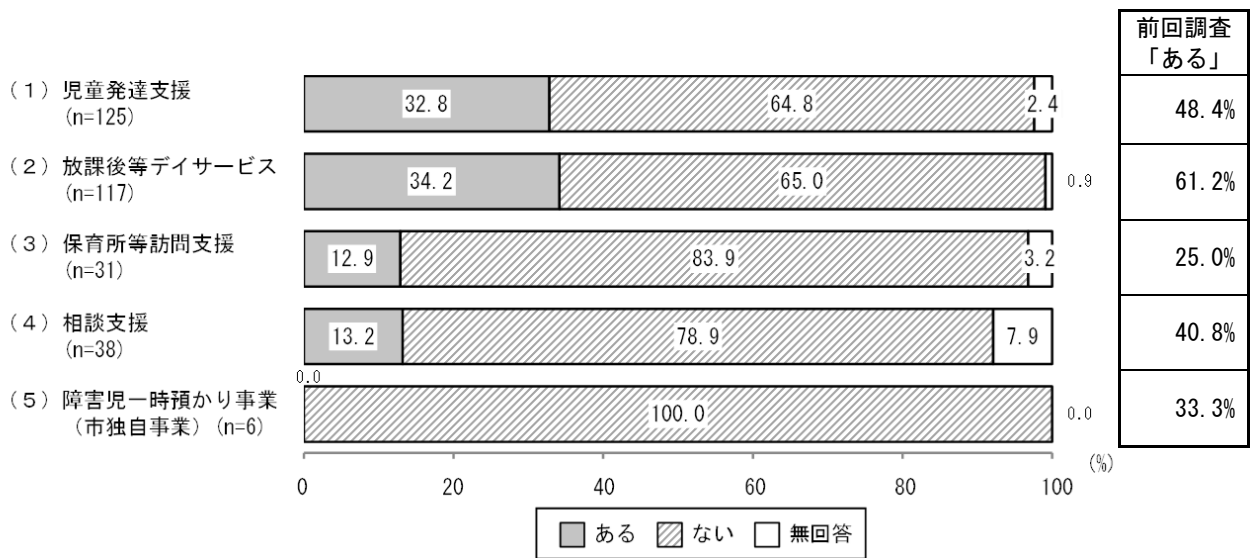


〔利用サービスの不満内容（18歳未満の障害のある市民）〕

(単位：3LA%)

	サンプル数	身近なところできないサービス	利用できない日・時間に	制限回数・時間などに	サービスを断られることが多利用	利用料が高い	ヘルパーや知識・経験が不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	情報が少ない内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
(1) 居宅介護（ホームヘルプ）	3	-	100.0	66.7	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-
(2) 移動支援（ガイドヘルプ）	12	25.0	33.3	66.7	-	16.7	8.3	-	8.3	16.7	-	8.3
(3) 補装具	21	23.8	4.8	33.3	-	38.1	4.8	14.3	28.6	47.6	14.3	4.8
(4) 日常生活用具	8	12.5	25.0	25.0	-	50.0	-	-	37.5	50.0	-	12.5
(5) 児童発達支援	26	19.2	46.2	46.2	19.2	7.7	30.8	3.8	30.8	26.9	-	-
(6) 居宅訪問型児童発達支援	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(7) 放課後等デイサービス	58	13.8	36.2	37.9	13.8	34.5	32.8	6.9	25.9	12.1	6.9	1.7
(8) 短期入所（ショートステイ）	9	66.7	66.7	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-	-	11.1
(9) 保育所等訪問支援	8	25.0	12.5	75.0	12.5	-	25.0	-	12.5	-	50.0	-
(10) 日中一時支援事業	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
(11) 相談支援	14	14.3	14.3	7.1	14.3	-	28.6	-	35.7	28.6	-	21.4
(12) 障害児一時預かり事業（市独自事業）	2	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
(13) 通学支援サービス	3	-	66.7	33.3	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-
(14) その他のサービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

〔利用サービスの不満点の有無（通所受給者証を持つ児童）〕



〔利用サービスの不満内容（通所受給者証を持つ児童）〕

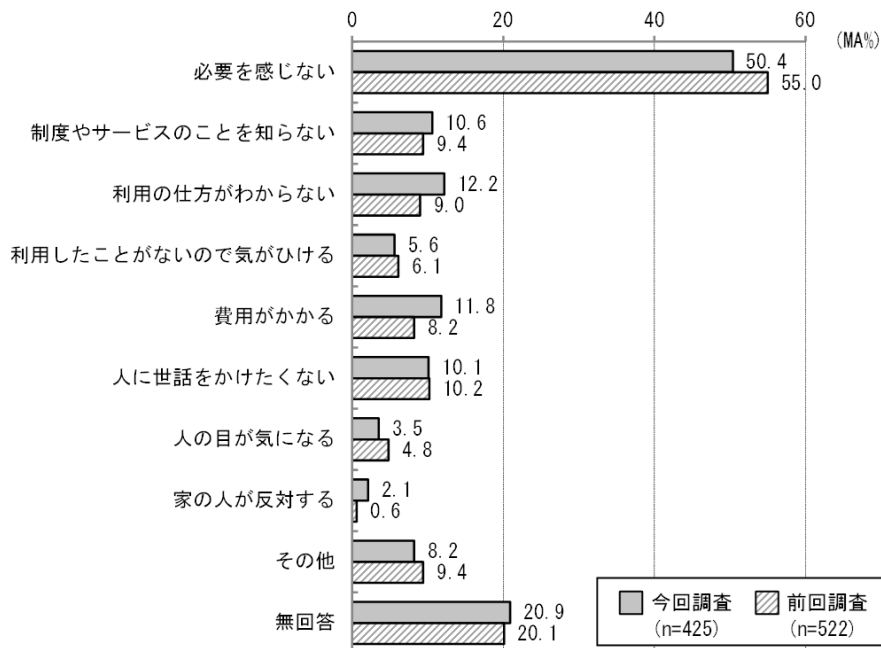
(単位：3LA%)

	サンプル数	身近なところでサービスを利用できない	利用できない日・時間に制限がある	利用回数・時間などに制限がある	事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	知識・経験が不足している	指導員など支援者のいない	建物や設備が発達の課題に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
(1) 児童発達支援	41	34.1	29.3	29.3	9.8	7.3	31.7	4.9	14.6	22.0	17.1	2.4		
(2) 放課後等デイサービス	40	27.5	45.0	17.5	7.5	12.5	37.5	7.5	17.5	12.5	12.5	2.5		
(3) 保育所等訪問支援	4	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	-		
(4) 相談支援	5	40.0	60.0	20.0	-	-	20.0	-	40.0	-	20.0	-		
(5) 障害児一時預かり事業 (市独自事業)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

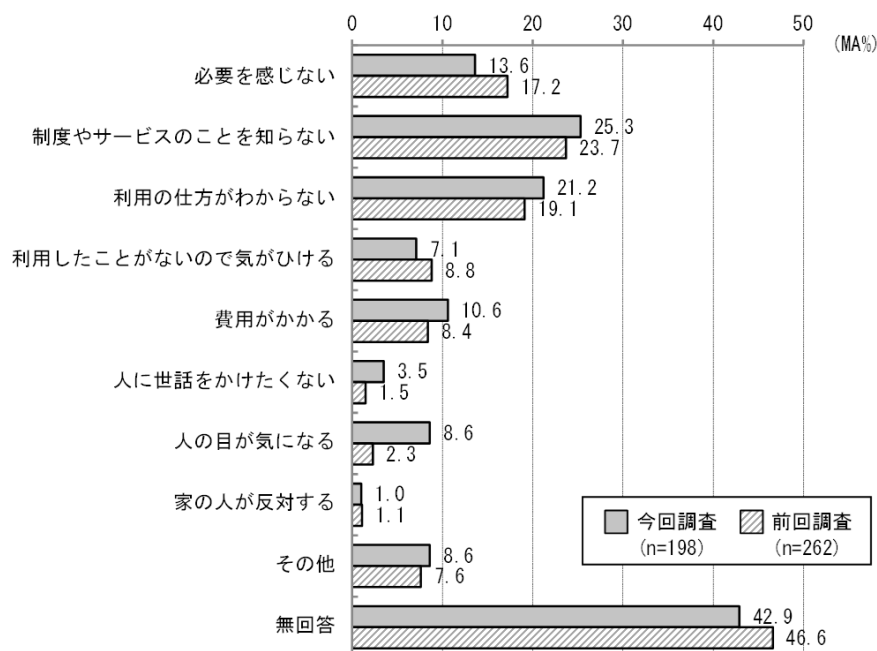
## 《サービスを利用していない理由》(報告書P.173)

- サービスを利用していない理由として、サービス未利用者では「必要を感じない」が50.4%を占めていますが、前回調査より4.6ポイント低くなっています。
- 障害児については無回答が多く、「制度やサービスのことを知らない」が25.3%、「利用の仕方がわからない」が21.2%、「必要を感じない」が13.6%となっています。「人の目が気になる」は前回調査より6.3ポイント高くなっています。

### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



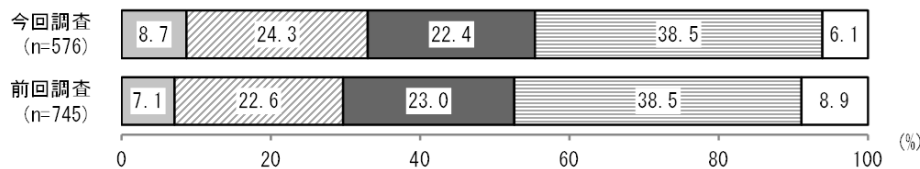
## ⑥障害や発達に支援が必要とする人の人権・理解促進

### 《ここ3年で障害や難病、発達に支援が必要であるために差別を受けた経験》

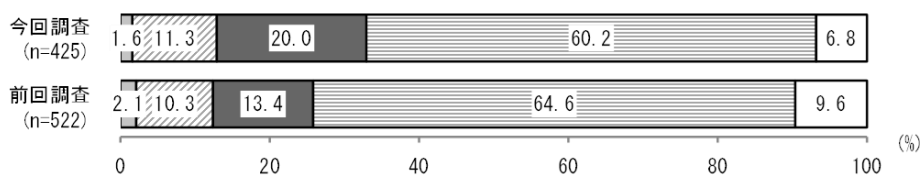
- 「よくある」と「ときどきある」を合わせて、障害児の44.4%、サービス利用者の33.0%、通所受給者証を持つ児童の28.8%、サービス未利用者の12.9%、施設入所者の7.3%となっています。前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、『ある』の割合は前回調査より9.9ポイント低くなっています。
- 差別を受けた場面については、18歳以上では「まちを歩いているとき」「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」「公共交通機関を利用するとき」などが上位を占めています。障害児や通所受給者証を持つ児童では「進学するときや学校生活において」がとりわけ多くを占めています。前回調査と比較すると、サービス利用者では「就職するときや職場生活において」が7.7ポイント、サービス未利用者では「役所で手続きするときや公共施設を使うとき」が13.3ポイント、障害児では「公共交通機関を利用するとき」が11.1ポイント、それぞれ前回調査より高くなっています。

〔障害や難病のため差別を受けたこと〕（報告書P.115）

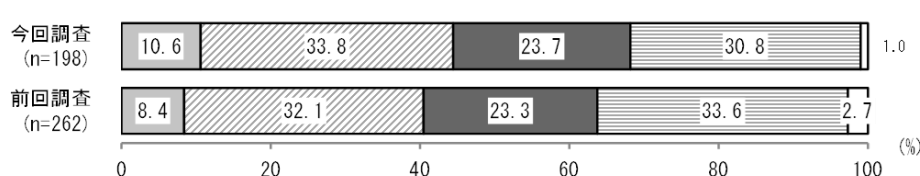
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



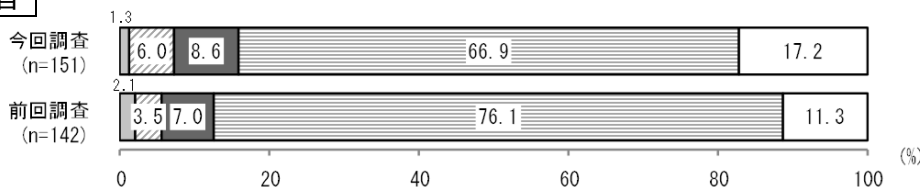
#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



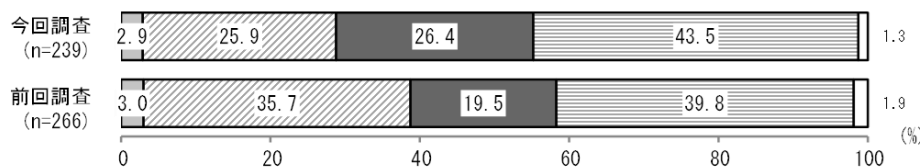
#### 18歳未満の障害のある市民



#### 施設入所者



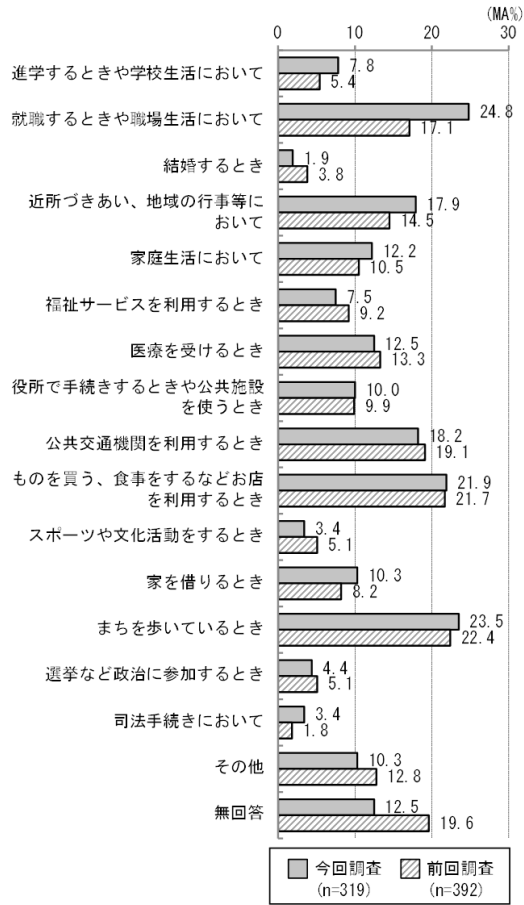
#### 通所受給者証を持つ児童



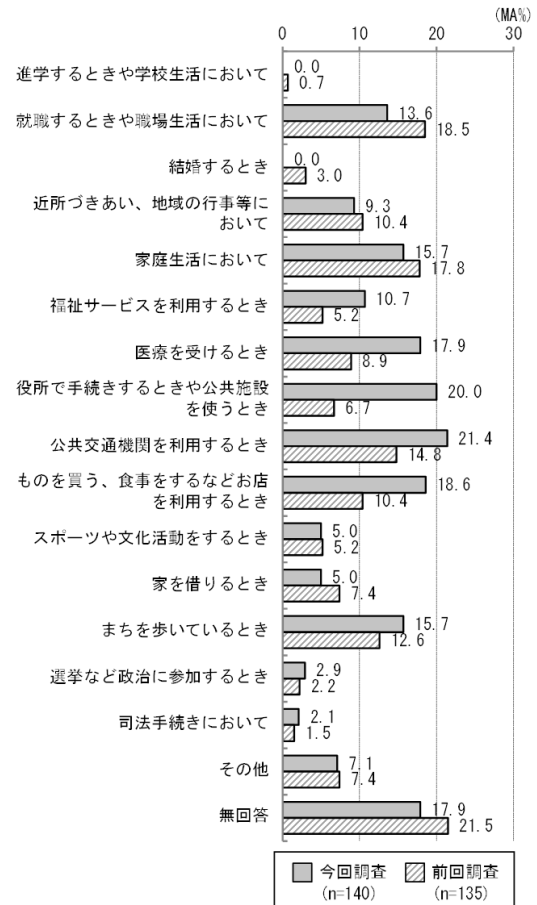
よくある    ときどきある    あまりない    まったくない    無回答

〔差別を受けた場面〕（報告書P.121）

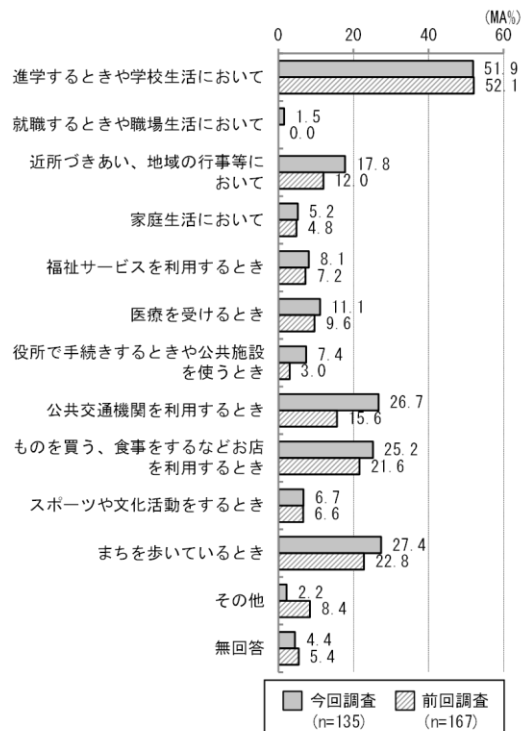
18歳以上の障害福祉サービス利用者



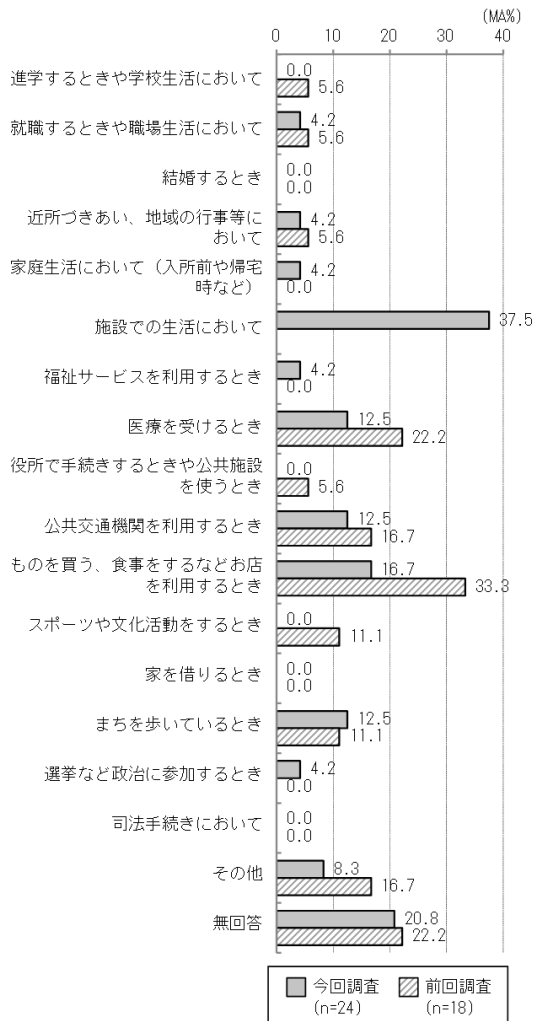
18歳以上の障害福祉サービス未利用者



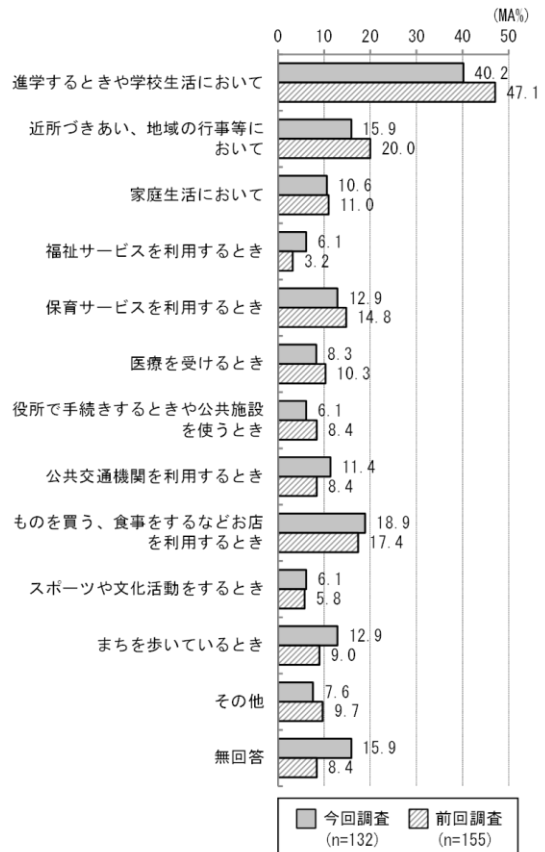
18歳未満の障害のある市民



### 施設入所者



### 通所受給者証を持つ児童

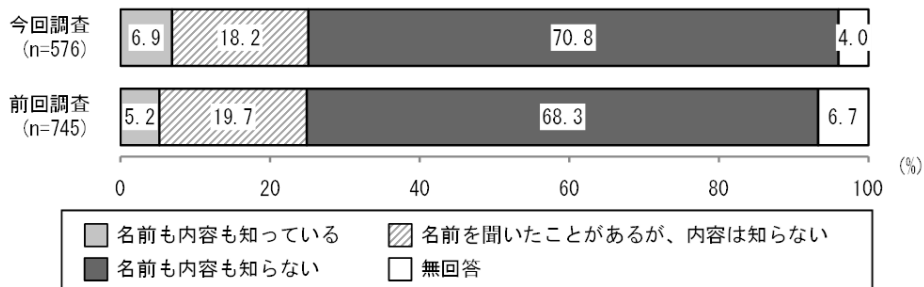


### 《障害者差別解消法の認知状況》(報告書P.151)

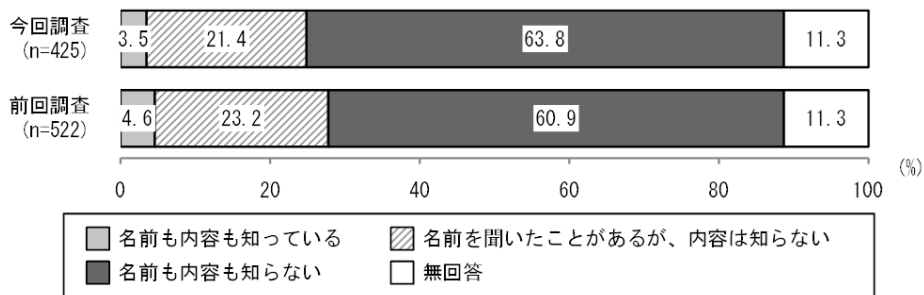
○障害者差別解消法について名前も内容も知っている人の割合はサービス利用者の6.9%、サービス未利用者の3.5%、障害児の11.1%、施設入所者の2.6%、通所受給者証を持つ児童の4.2%と、障害児以外ではいずれも10%以下にとどまっています。

前回調査と比較すると、名前も内容も知っている人の割合は、サービス利用者、障害児、施設入所者で前回調査より高くなっています。

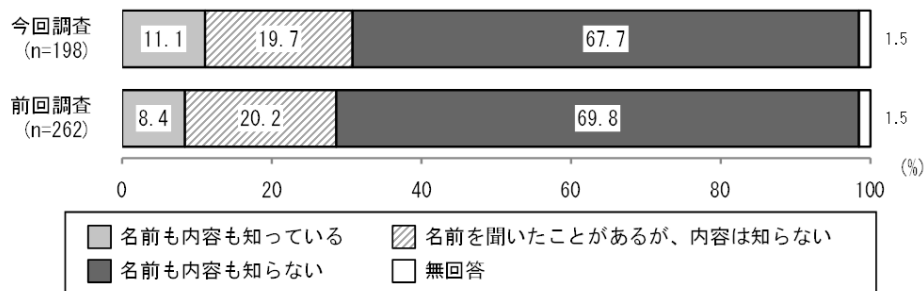
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



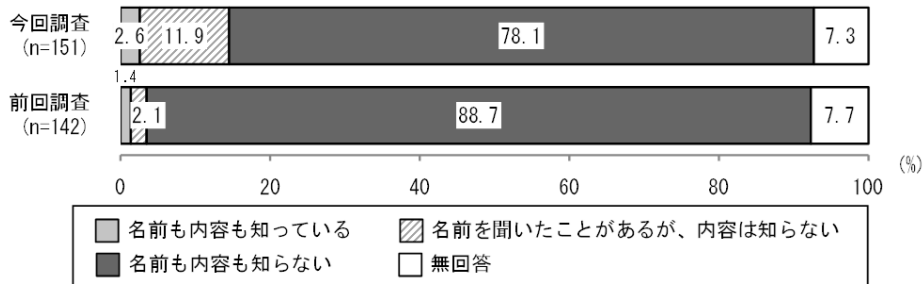
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



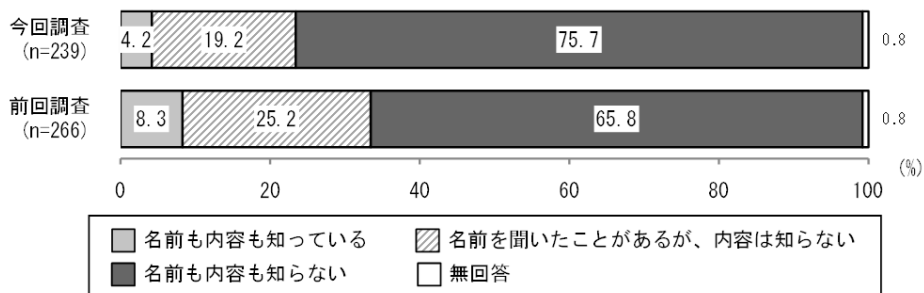
### 18歳未満の障害のある市民



### 施設入所者



### 通所受給者証を持つ児童



## ⑦将来の暮らし方

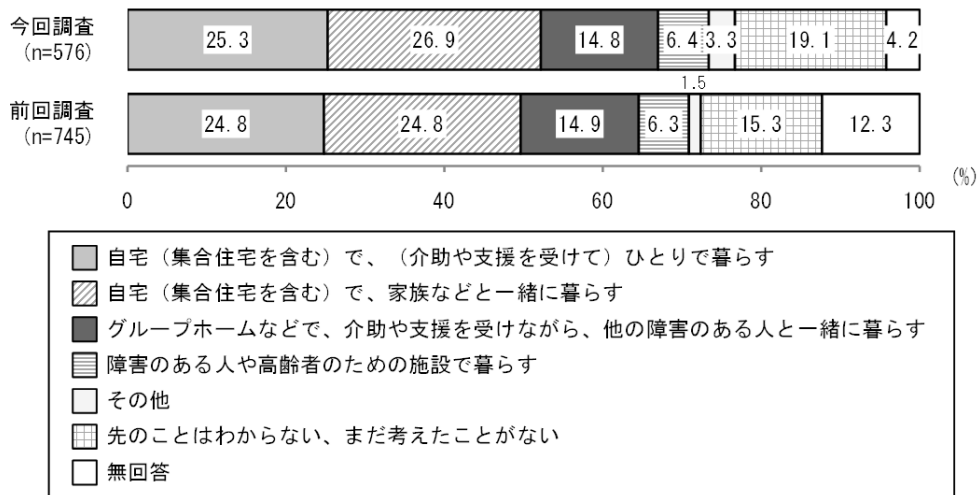
### 《将来の暮らし方》

○サービス利用者では、「自宅で、家族などと一緒に暮らす」が26.9%で最も多く、次いで「自宅で、ひとりで暮らす」が25.3%となっています。また、サービス未利用者では「自宅で、家族などと一緒に暮らす」が36.7%で最も多く、次いで「先のことはわからない、まだ考えたことがない」が24.0%となっています。前回調査と比較すると、サービス未利用者では、「自宅で、ひとりで暮らす」が前回調査より3.4ポイント低くなっています。

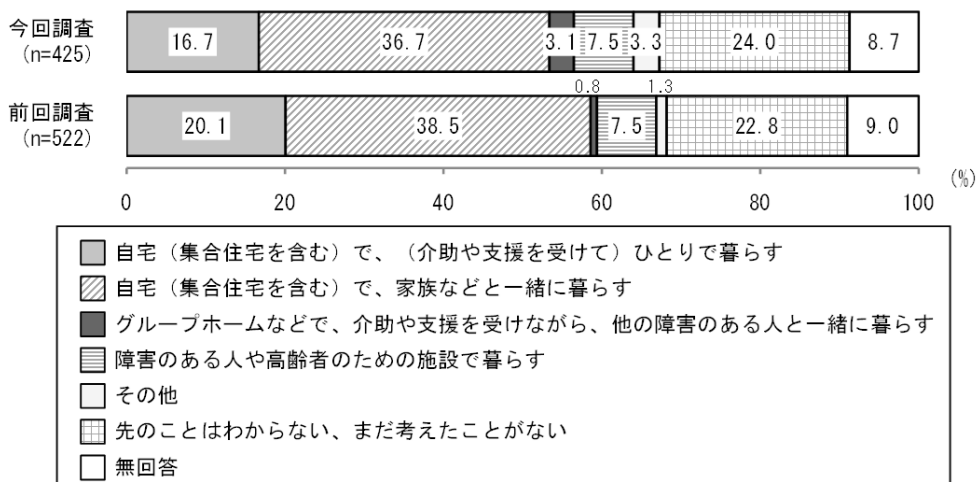
○障害児では、大人になったらしてみたいこととして、「家族と一緒に暮らすこと」が42.9%で最も多く、次いで「介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと」が27.3%、「結婚したり、子どもを育てること」が25.3%となっています。前回調査と比較すると、障害児では、「家族と一緒に暮らすこと」が前回調査より6.3ポイント、「大学などで専門的な勉強をすること」が前回調査より6.0ポイント、それぞれ高くなっています。

〔希望する10年後の暮らし〕（報告書P.176）

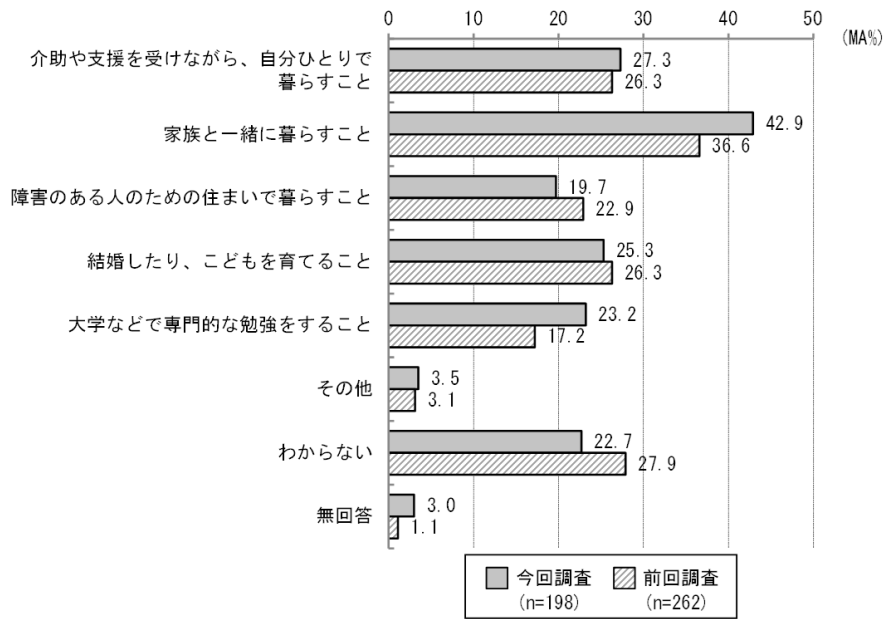
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



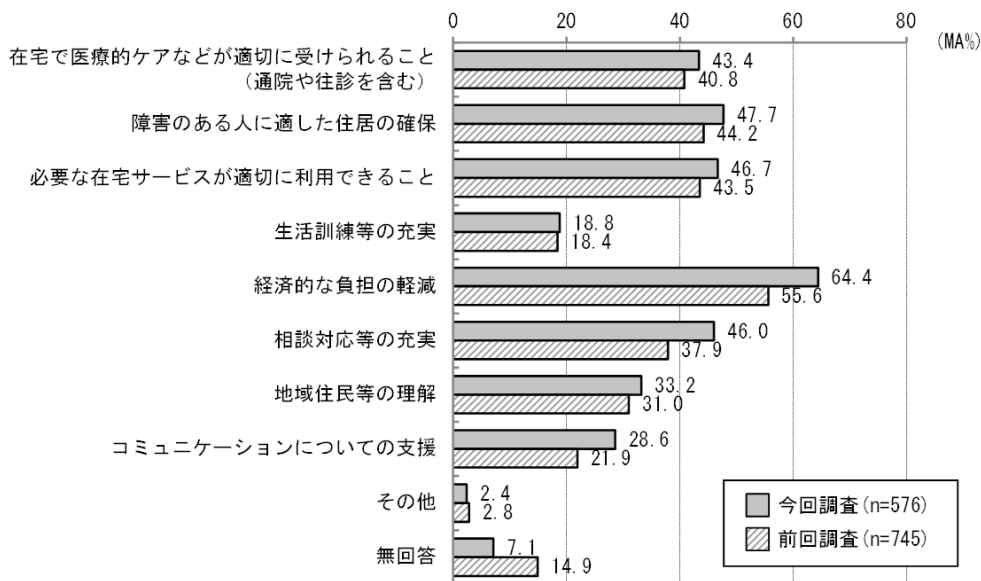
〔大人になったらしてみたいこと（18歳未満の障害のある市民）〕（報告書P.181）



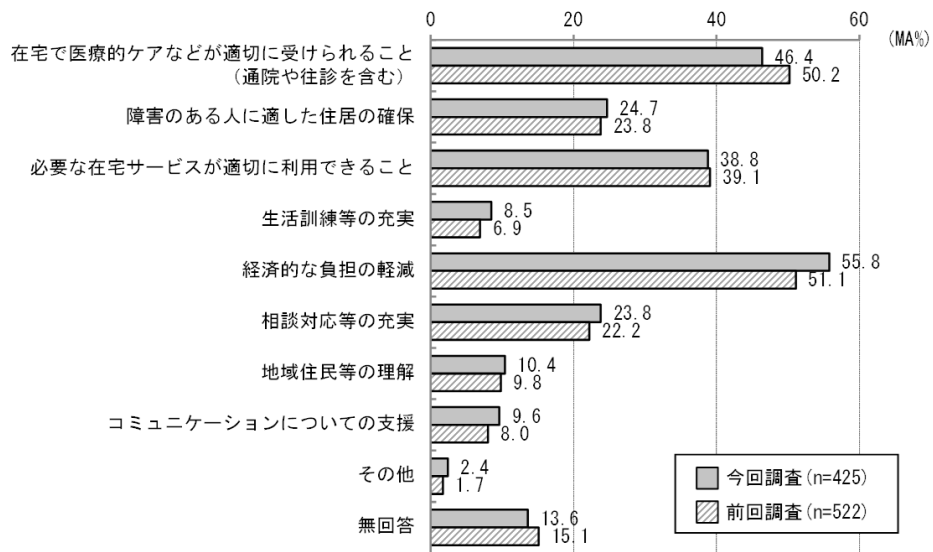
《地域での生活に必要なとする支援》（報告書P.184）

- 「経済的な負担の軽減」をあげる人が多く、障害児の75.3%、サービス利用者の64.4%、サービス未利用者の55.8%、通所受給者証を持つ児童の51.0%を占めており、いずれも前回調査より高い割合となっています。
- 「必要な在宅サービスが適切に利用できること」は、サービス利用者の46.7%、障害児の43.9%、サービス未利用者の38.8%が必要としています。
- 「相談対応等の充実」は、障害児の49.0%、サービス利用者の46.0%、通所受給者証を持つ児童の44.4%が必要としており、障害児とサービス利用者では前回調査より高い割合となっています。また、通所受給者証を持つ児童では54.4%の人が、「生活能力を維持・向上させる支援の充実」を必要としています。

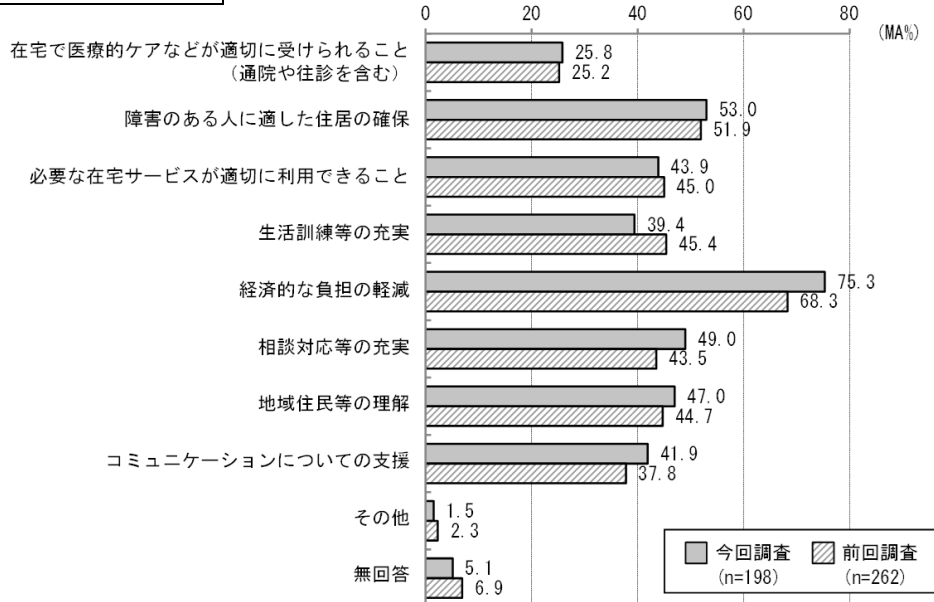
18歳以上の障害福祉サービス利用者



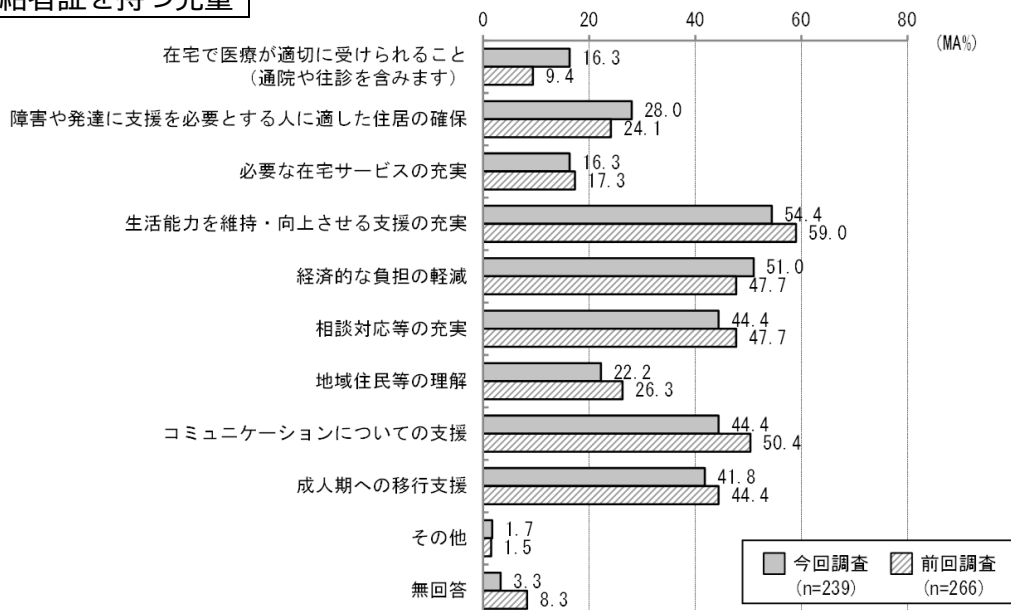
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



### 通所受給者証を持つ児童



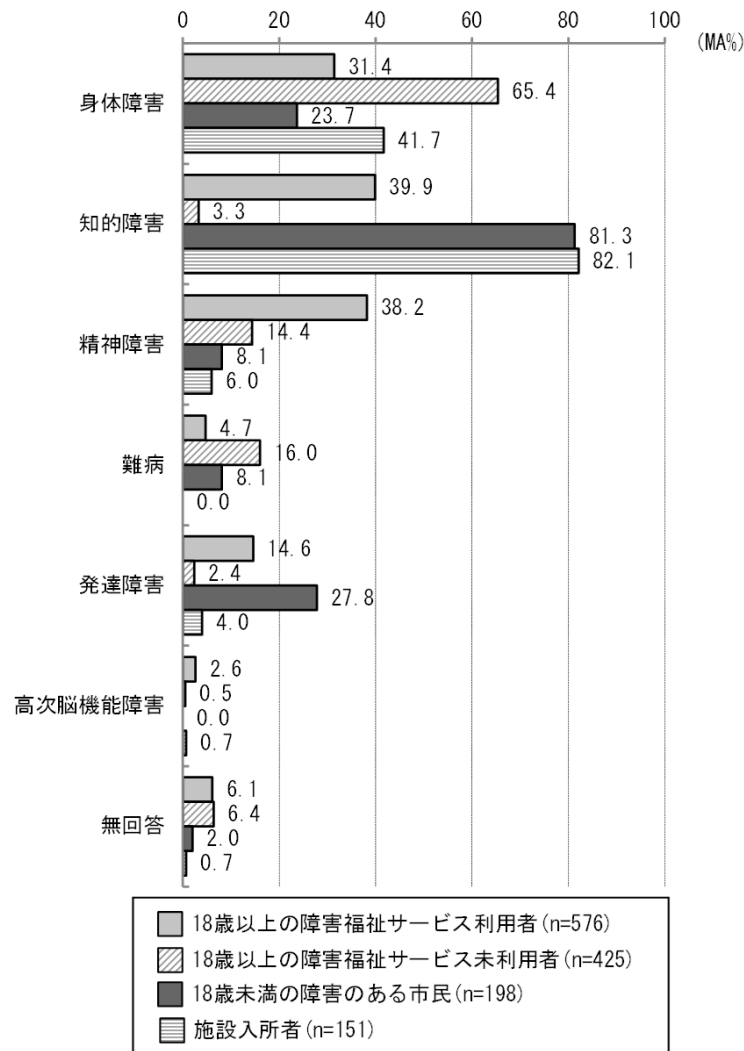
## ⑧施設入所者の状況と地域生活への移行に関する意識

### 《回答者の属性》

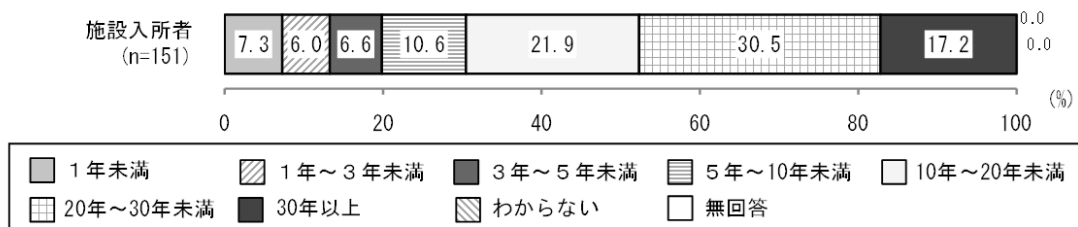
○施設入所者の82.1%が療育手帳、41.7%が身体障害者手帳を所持しています。

○現在の施設での入所年数は5年以上という人が80.2%を占めています。

〔障害の種別〕（報告書P.14）



〔入所年数（施設入所者）〕（報告書P.29）



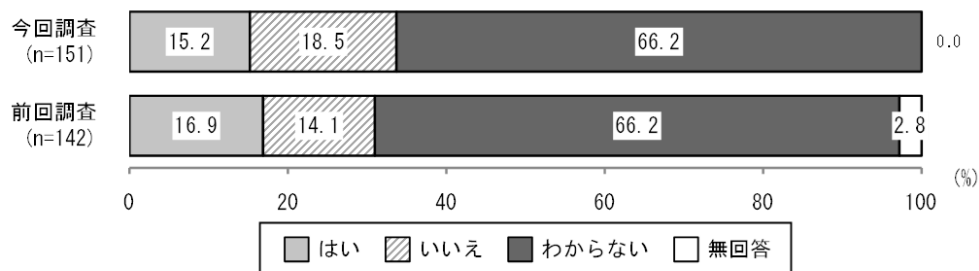
## 《地域生活への移行に関する関心》

○施設を退所して地域で生活したいという人は15.2%となっていますが、入所5年未満の人では33.3%となっています。また、前回調査(16.9%)の結果と比べると、地域生活への移行に関心を示す人の割合はやや減少しています。

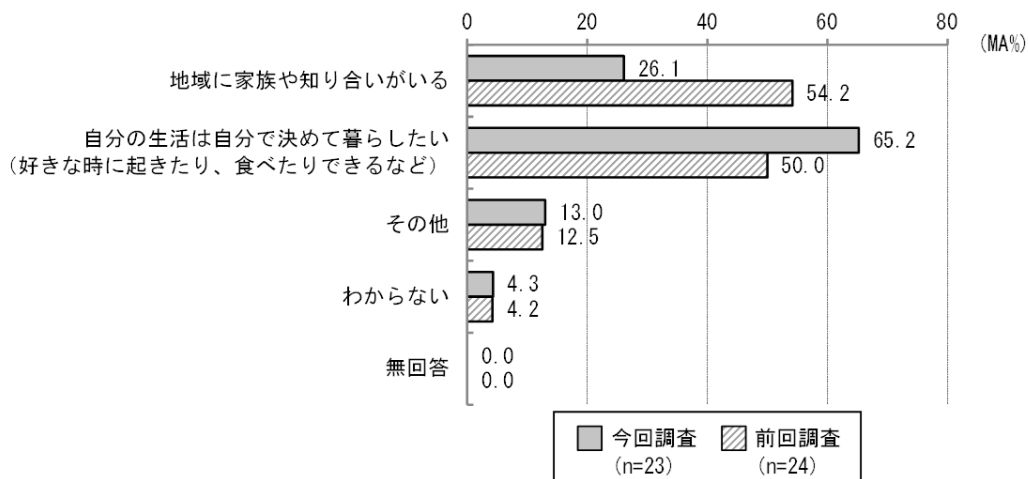
○退所したい理由は「自分の生活は自分で決めて暮らしたい」が65.2%を占めています。

○地域で暮らしたい場所については「施設に入る前に住んでいた地域」が52.2%、「それ以外の豊中市内」が17.4%となっています。

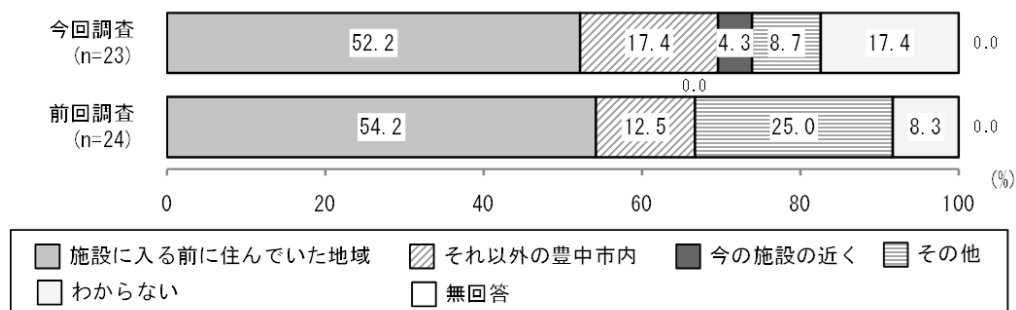
〔退所して地域で生活したいと思った経験の有無(施設入所者)〕(報告書P.190)



〔退所したい理由(施設入所者)〕(報告書P.191)



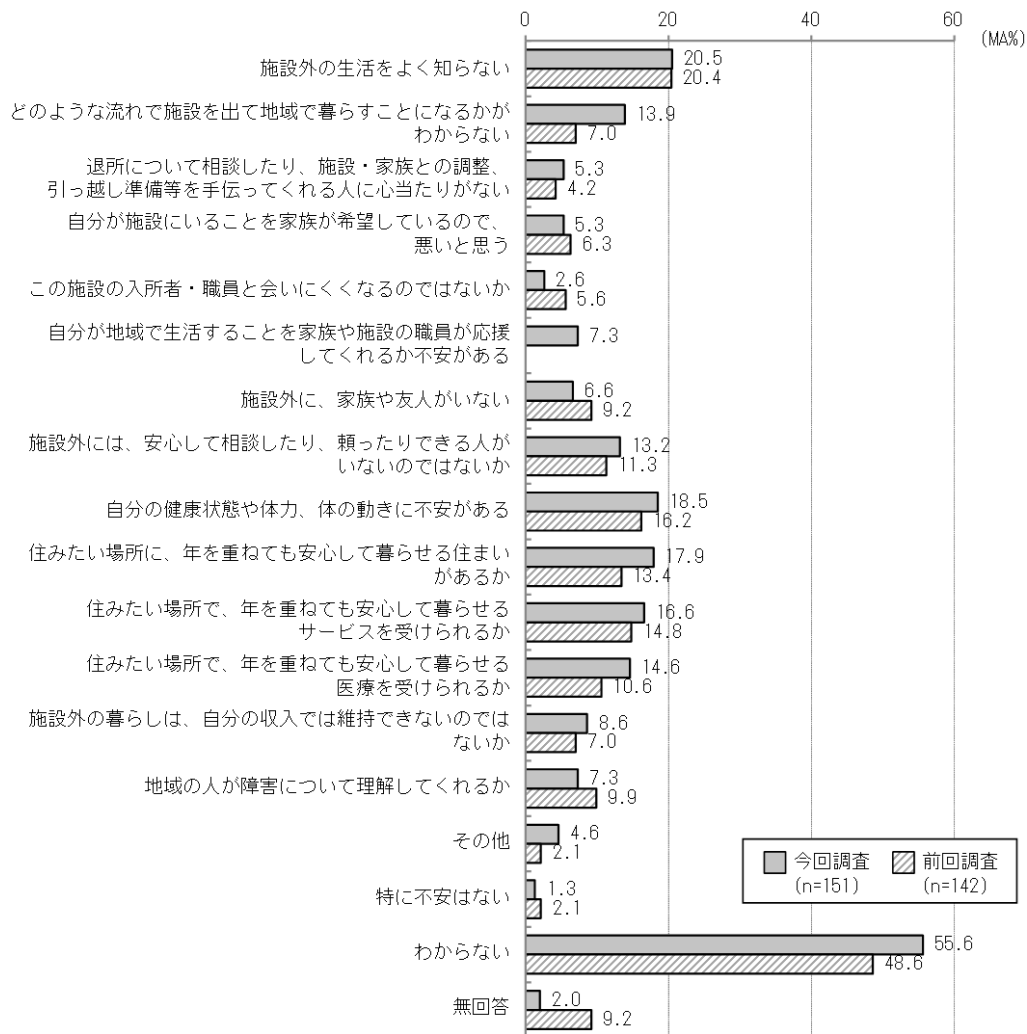
〔暮らす場所への希望(施設入所者)〕(報告書P.194)



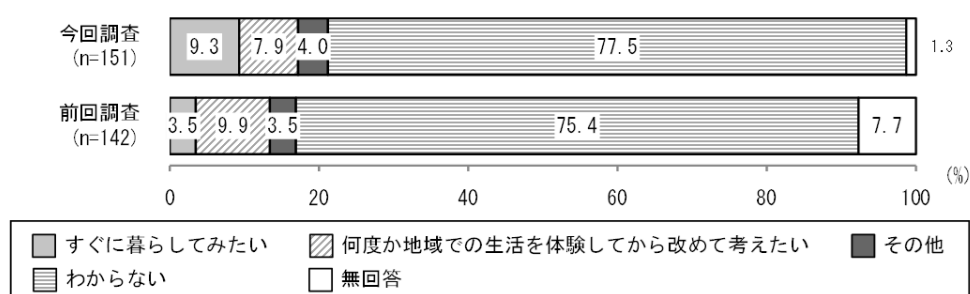
## 《地域で生活することへの不安》

- 「施設外の生活をよく知らない」が20.5%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある」が18.5%、「住みたい場所に、年を重ねても安心して暮らせる住まいがあるか」が17.9%などとなっています。前回調査と比較すると、「どのような流れで施設を出て地域で暮らすことになるかがわからない」が前回調査より6.9ポイント高くなっています。
- 地域生活への不安が解消されたら、すぐに地域で暮らしてみたいかたずねたところ、「すぐに暮らしてみたい」と答えた人は9.3%とわずかで、「わからない」が77.5%となっています。前回調査と比較すると、「すぐに暮らしてみたい」が前回調査より5.8ポイント高くなっています。

【地域での生活に不安に思うこと（施設入所者）】（報告書P. 200）



【地域生活への移行等に対する意識（施設入所者）】（報告書P. 203）



第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画  
策定に向けた市民アンケート結果報告書  
《概要版》

令和8年(2026年)3月

<編集・発行>

豊中市 福祉部 障害福祉課

電話：06-6858-3354 (直通)

豊中市 こども未来部 おやこ保健課

電話：06-6858-2285 (直通)